

令和2年度 滝川市道徳教育推進事業 実践報告書

「自己と他者の心を見つめる 道徳科の授業の在り方」

～考え、議論する学習過程を通して～



滝川市教育委員会
滝川市道徳教育研究会議

発 刊 に あ た っ て

本年度は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言、そして学校の臨時休業、予防対策をしての学校再開等、極めて対応が難しい状況の中で、様々な教育活動の充実に努められたことに感謝申し上げます。

さて、「特別の教科 道徳」がスタートし、数年がたとうとしています。各学校においては、日々、道徳の時間の充実に向け、質の高い多様な指導方法等を取り入れる等、研究に取り組んでいることと思います。

本市においては、子どもたちの豊かな心の育成を図るため、平成19年度から2年間は文部科学省の指定を受け、平成21年度からは、市独自に「道徳教育推進事業」を立ち上げて実践的な研究を推進してきたところです。

一昨年度からは、これまでの研究成果を引き続き「深める、広げる」とともに本市の道徳教育の一層の充実を図るため、3か年計画で、道徳教育の要となる「道徳科の授業」に係る実践研究を推進してまいりました。本年度は、3か年研究の最終年次となり、4名の先生方による授業実践を通して、特に「授業のねらいに迫る発問や学習過程」や「子供たちの学習への意欲化を図る表現活動」について深めることができました。

本報告書には、研究主題に基づいた研究理論・授業実践等、研究の取組の成果が掲載されております。各学校において本書が有効に活用され、子どもたちに、自己の生き方について自分なりの考えをもち、主体的に行動しようとする心が一層醸成されることを願っております。

終わりになりますが、本研究事業の推進にあたり、ご協力いただきました研究員の先生方、関係各位に心からお礼を申しあげ、発刊にあたってのご挨拶といたします。

令和 3年 3月

滝川市教育委員会教育長 山 崎 猛

目 次

発刊にあたって

第1章 研究概要

I. 研究主題及び主題設定の理由	2
II. 目指す子ども像	2
III. 研究仮説	2
IV. 研究内容	3
V. 研究の全体構造図	4
VI. 事業及び研究の進め方	5
VII. 研究推進の経過	6
VIII. 令和2年度 滝川市道徳教育研究会議 名簿	7

第2章 研究理論

I. 児童生徒の思考を深める発問の工夫	9
II. 言語活動の充実を図る指導方法の工夫	13
III. 保護者や地域の方などの支援を得た指導の工夫	16

第3章 令和2年度授業実践

・滝川市立滝川第三小学校 田中圭輔 教諭	19
・滝川市立西小学校 新谷駿介 教諭	24
・滝川市立江陵中学校 川畑摩沙子 教諭	30
・滝川市立開西中学校 富樫雅美 教諭	34
・各授業実践の反省 ～各研究協議より～	40

第4章 成果と課題

・令和2年度 滝川市道徳教育推進事業 研究の成果と課題	51
-----------------------------	----

参考・引用文献	60
---------	----

研究概要

I 研究主題及び主題設定の理由

1 研究主題

「自己と他者の心を見つめる道徳科の授業の在り方」

～考え、議論する学習過程を通して～

2 研究主題設定の理由

平成29年3月に告示された新学習指導要領において、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等、社会が加速度的に変化する新しい時代に求められる資質・能力を育むため、「社会に開かれた教育課程」の実現が示された。よりよい学校教育を通して、よりよい社会をつくるという理念のもとに、学校教育と社会教育のより密接な関わりが求められている。大きく変化し続け、予測困難な社会において、学校、家庭、地域が連携・協働して、社会総がかりで子どもを育成する仕組みづくりが重要である。

そうした中、児童生徒に生命を大切にする心や思いやりの心、倫理観や規範意識など、人間としての在り方や生き方の礎となる道徳的価値を理解させ、豊かな人間性や社会性をはぐくむ道徳教育を充実することが求められている。

とりわけ、これからの時代に、多様な人々と協働して生きる児童生徒にとって、様々な視点から他者や物事を理解し、主体的に判断し、行動することができるようになることが求められる。そのような資質・能力を身に付けることで、身のまわりの人、集団そして社会とのかかわりを大切にし、望ましい人間関係の育成を図ることができると考えられる。

児童生徒に、自立した人間として他者とともによりよく生きようとする心をはぐくむためには、生きていることの素晴らしさや喜びを味わわせ、生きがいをもたせるとともに、その在り方について主体的に自分との関わりで考え、多様な考え方や感じ方と出会い交流する体験などを通して、そのよさや意義、困難さ、多様さなどの理解を深める必要がある。

これらのことから、本研究では、研究主題を「自己と他者の心を見つめる道徳科の授業の在り方」と設定し、児童生徒が道徳的価値を自分ごととして考え、他者と議論することを通して自己の生き方についての考えを深めていくことができる道徳科授業の姿について研究をすることとした。

II 目指す子ども像

本研究では、児童生徒に、①自己の生き方について自分なりの考えをもち、主体的に判断し、行動しようとする心 ②他者を思いやり、他者との関係を大切にしようとする心を育成する観点から目指す子ども像を、

「自己の生き方についての考えを深め、他者とよりよい関係を築きながら行動しようとする子ども」

と設定する。

III 研究仮説

上記の「目指す子ども像」を踏まえ、研究仮説を次のように設定した。

「道徳科の授業」において、道徳的価値の内面化を図らせながら、他者との関わりを通じて多様な見方・考えに気づかせる指導の工夫を講じるとともに、保護者や地域住民等の支援を得た指導を充実させることにより、児童生徒に自己の生き方についての考えを深め、他者とよりよい関係を築きながら行動しようとする心をはぐくむことができるであろう。

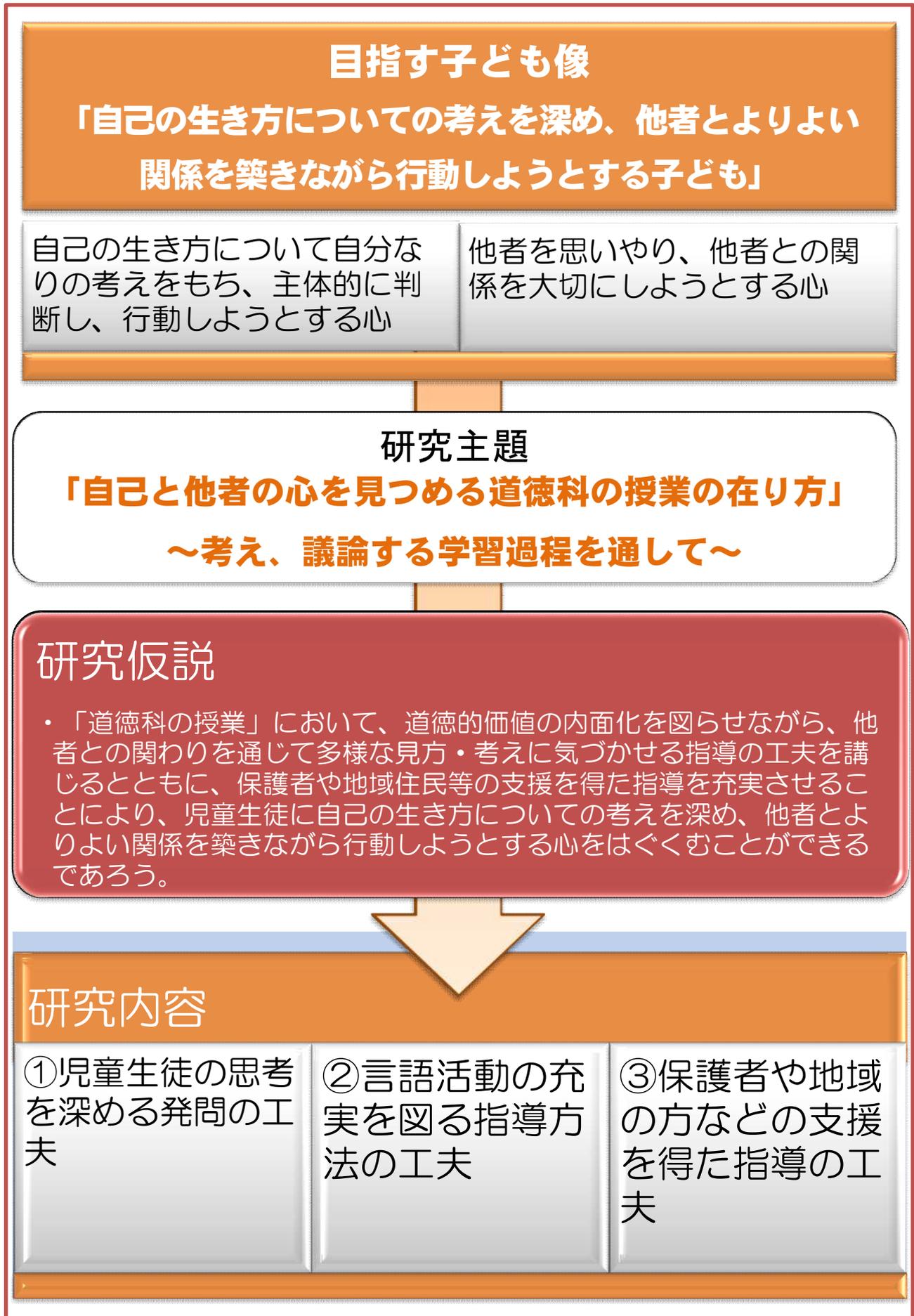
IV 研究内容

児童生徒に「自己の生き方についての考えを深め、他者とよりよい関係を築きながら行動しようとする心」をはぐくむためには、道徳教育の要となる道徳科の授業において児童生徒が他者との関わりを通して、道徳的価値を自分ごととして捉えながら思考する学習活動を展開することが必要である。

そのためには、児童生徒の思考を深めたり、広げたりする指導過程の充実を図るとともに、児童生徒・教員・保護者そして地域の方との関わりや体験活動を意図的・計画的に教育活動に位置づけることが大切である。

そこで、研究の対象を「道徳科の授業」とし、研究内容を次のように設定した。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 児童生徒の思考を深める発問の工夫② 言語活動の充実を図る指導方法の工夫③ 保護者・地域の方などの支援を得た指導の工夫 |
|--|



VI 事業及び研究の進め方

1 事業名

滝川市道徳教育推進事業（平成30年度～令和2年度） ※3か年研究 最終年次

2 事業のねらい

本市が推進してきた「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業（平成19～20年度）」・「滝川市道徳教育推進事業（平成21～30年度）」の成果を「広げる・深める」ことを通して、本市における道徳教育の更なる充実に資することをねらいとする。

(1) 道徳科授業の質の向上

- ・「道徳科」の授業実践の充実（アンケートの活用・効果的な発問の在り方）
- ・自己の生き方についての自覚を深める指導の工夫
- ・教材の効果的活用（「はーとふる」「きたものがたり」を含む）
- ・言語活動の充実が図られる指導過程の工夫（「書く活動」と「話す活動」に関わるねらい・目的の明確化）

(2) 家庭・地域と連携した道徳教育の推進

- ・保護者と連携した「子どもの心を耕す」取組の充実
- ・地域の教育力を積極的に活用した道徳教育の充実

(3) 研究成果の還流・発信

- ・実践発表会の実施
- ・実践資料の各学校への配布（DVD版）と滝川市教育委員会HP掲載による道徳科授業の実践内容に係る保護者や地域に向けた発信

3 事業及び研究の進め方

(1) 滝川市道徳教育研究会議の設置

本事業における研究を推進するために、「滝川市道徳教育研究会議」（以下、研究会議）を設置する。

(2) 研究会議は、市内小・中学校教員10名（小学校6名、中学校4名）と事務局（教育委員会職員）により構成される「滝川市道徳教育研究会議」を設置し、研究を推進する。

(3) 研究会議の活動

- ①道徳科に係る理論研究を行う。
- ②授業実践を通して研究仮説の検証を図る。
- ③3年間で10校の研究授業を実施する。
※平成30年度：3校、令和元年度：3校、令和2年度：4校
- ④実践発表会を開催して研究成果を還流・発信する。また、実践資料を作成し、各学校に配布するとともに、滝川市教育委員会HPにも掲載する。
- ⑤多様な教材を用いて（「きたものがたり」等を含む）ねらいを達成するための効果的な指導の在り方を検証する。

4 令和2年度研究推進の重点（※令和元年度の成果と課題より）

(1) 『考え、議論する道徳』の姿を明らかにする「発問の在り方」の検討

- ・児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問の在り方

(2) 言語活動の充実を図る指導過程や指導方法の工夫

- ・「書く活動」と「話す活動」のねらいや目的の明確化や時間配分
- ・思考の変容をたどっていけるようなワークシート作成・使用など、「書く活動」を通じた授業内容の深化を図る工夫
- ・「話す活動」における形態（ペア、小グループなど）、手法（KJ法、ジグソー法など）の検証
- ・教科書教材などの多様な活用方法（長文教材・挿絵）

- (3) 学校、家庭、地域連携の要となる「特別の教科 道徳」の充実
 - ・「学級通信」や「教科書」、「きたものがたり」等を活用した双方向の情報・意見交流
 - ・市内の教員への研究成果の還元
 - ・外部講師となり得る人材のリスト化(外部講師バンクの作成)

5 児童生徒の変容を把握するための手だて

- ・滝川市道徳教育研究会議作成「道徳アンケート」の実施
- ・計画的な児童生徒の観察 ・各校の自己点検、自己評価 ・感想文、ワークシート
- ・児童生徒に対するアンケート ・保護者へのアンケート
- ・自校内はもとより、学校間、校種間を超えた教師の話し合い など

6 本事業における道徳科の授業公開の実施計画

- (1) 研究会議による公開授業研究
各研究員が研究理論に基づき公開研究授業を行うことで、研究主題の具現化を図る。
- (2) コスモステー地域一斉参観日における道徳科の授業公開
期 日：令和2年10月30日（金） 滝川市地域一斉参観日
市民に向け、市の広報で地域一斉参観日の開催を知らせ、広く授業を公開する。

7 その他

本研究では、小学校、中学校における「特別の教科 道徳」の実施に伴う情報の提供を行う。

VII 研究推進の経過

- ・第1回研究会議（令和2年6月 3日） 研究会議結成、推進計画
- ・第2回研究会議（令和2年6月18日） 全体計画、理論研究、アンケート及び指導案

◇指導案確認（書面）
授業参観（YouTube）
研究協議（書面） } 令和2年11月 2日～令和3年1月13日

授業日

江陵中学校・・・令和2年11月19日
滝川第三小学校・・・令和2年11月26日
開西中学校・・・令和2年11月27日
西小学校・・・令和2年12月 1日

- ・第3回研究会議（令和3年1月21日） 研究のまとめ、実践発表会に向けて
- ・第4回研究会議（令和3年2月18日） 実践発表会

Ⅷ 令和2年度 滝川市道徳教育研究会議 名簿

<研究員>

滝川第一小学校	駒井大河	東小学校	新栄由起
滝川第二小学校	寺川三奈	江陵中学校	川畑摩沙子
滝川第三小学校	田中圭輔	明苑中学校	地原美紗登
西小学校	新谷駿介	開西中学校	富樫雅美
江部乙小学校	庄子麻衣	江部乙中学校	月岡直紀

<運営者>

滝川市教育委員会	教育部指導参事	廣瀬一仁
滝川市教育委員会	教育総務課主査	佐藤憲弘
滝川市教育委員会	教育総務課事務補	秦野真歩

研究理論

I. 児童生徒の思考を深める発問の工夫

1. 児童生徒の思考を深める発問の工夫

児童生徒に自己の生き方についての考えを深め、他者とよりよい関係を築きながら行動する心をはぐくむためには、道徳科の授業において児童生徒が他者との関わりを通して、道徳的価値を自分ごととして捉えながら思考する学習活動を展開することが大切である。そうした学習活動を促す上で、「発問」の質は欠かせない要素といえる。

「発問」の質については、前3か年研究においても指導案検討や授業反省の際に研究員の間で議論となっており、特に研究最終年次となる平成29年度には、授業のねらいと児童生徒の実態を踏まえた「発問」について、指導案検討段階で協議を深めてきた。公開された4本の研究授業では、それぞれ児童生徒がねらいとする道徳的価値について自分なりの考えをもち、他者と交流する活動を通して新たな見方や考え方に気付き、それを自分のこれからの結び付けて考えていく実践が行われた。その一方で、子どもの思考を深める発問の一定の「型」について、これまでの実践を整理する必要があるという課題も残された。

そのことを踏まえ、一昨年度から「児童生徒の思考を深める発問」の在り方について研究を進めることとした。

(1) 学習指導過程の特質に応じた発問の工夫

児童生徒の道徳的価値の理解を基に、道徳性を養うためには、教材の道徳的価値を自らの生き方と関連づけて、考えさせることが必要である。そのためには、学習指導過程の特質を踏まえた教材の活用と合わせた発問の工夫が大切である。

導 入

<ねらいとする道徳的価値への方向付けの段階>

- ・道徳的価値に意識を向ける。
- ・主題に対する興味や関心を高める。
- ・学習に向かう雰囲気をつくる。

【 留 意 点 】

- ・道徳的価値が自分とかわりがあるという意識をもたせる。
- ・考えるための視点をもたせる。

○教材提示の工夫

- ・アンケート調査の結果の提示
- ・絵画、写真、実物
- ・音声や音楽
- ・新聞記事や作文、詩
- ・地域素材、実験観察 等

- ・興味、関心を喚起させる発問
- ・資料に関する発問や説明
- ・体験を振り返らせる発問
- ・自分を振り返らせる発問 など



【R2年度実践例】

江陵中学校

事前に生徒に対して行ったアンケートの結果を生徒に示すことによって、主題に対する興味・関心を高めることができた。

展開

<中心的な教材によって道徳的価値についての自覚を深める段階>

- 教材の中の登場人物を通して、道徳的価値を追求し、把握する。
- 多様な考え方、感じ方に出会う。
- 自分の生活、生き方、在り方を振り返る。

【留意点】

- 多様な考え方、感じ方を引き出すための発問を行う。
- 登場人物に同化させ、自分の考え方や感じ方を表現できるようにする。
- 自分自身を自覚させるようにする。

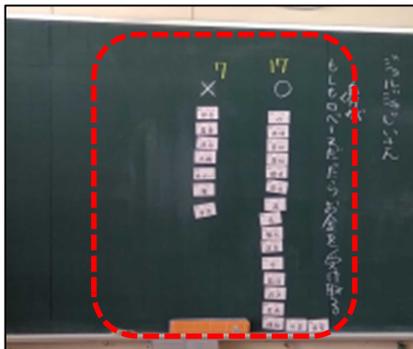
○教材提示の工夫

- 読み物教材の読み聞かせ
(スライド等での提示)
- 教材の分割提示
- 教材の繰り返し提示
- VTRの活用 など

○思考を深める工夫

- 自分の考えを書く活動
- ペアでの対話
- 小集団での話し合い
- 座席配置の工夫
- スムーズな思考を促す板書の工夫 など

- 教材中の事実や場面、状況を問う発問
- 登場人物や場面についての感想、判断、意見などを問う発問
- 児童生徒の発言や反応を生かした発問
- 思考に揺さぶりをかける発問
- 人物の心情に迫る発問 など



【R2年度実践例】

西小学校

「ネームプレート」(左の写真の枠内)の活用により、児童が自らの意識や立ち位置の可視化が図られた。

終末

〈ねらいとする道徳的価値に対する考えや思いをまとめたり、今後につないだりする段階〉

- ・道徳的価値を確かめ、整理し、まとめる。

○終末の工夫

- ・感想の発表
- ・教師の説話
- ・書く活動
- ・補助教材の提示 など

【留意点】

- ・望ましい行為への決意表明などは行わないようにする。
- ・児童一人一人が、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感でき確かめることができるような工夫が必要である。

- ・今日の授業についての感想を問う発問
- ・自己の変容や気づきについて問う発問
- ・実践への意欲化を図る発問 など

【R2年度実践例】

滝川第三小学校

岩橋永遠が地元の中学生に宛てた手紙を紹介することにより、余韻を残す終末を演出することができた。



(2)「展開」における教材の魅力を引き出す発問の工夫

展開において、児童生徒の思考に揺さぶりをかけたり、人物の心情に迫らせ、教材に含まれている道徳的価値に気づかせたりするためには、教師の発問が重要であり、次の点に留意して発問を構成することが大切である。

- ① 教材に回答が記述してあることを聞くだけの発問構成をさける。中心発問はねらいとする道徳的価値について考える切り口に関わるものとして設定する。
- ② 行動の仕方だけを考える発問はさけ、行動の根拠となる心の在り方に関する発問を設定する。
- ③ 読み物教材において、教材中の副詞や副詞句に留意して発問を構成する。行動は動詞で表現されるが、内面的な心の動きを表現するのは副詞や副詞句である。

例) 下線の部分に注目して、ねらいにせまる発問をする

・・・夕焼けの光の中で、祖母の背中は幾分小さくなったように見えた。

発問「祖母の背中が『幾分小さくなったように』見えたのは、主人公の心にどのような思いがあったためだろう？」

Ⅱ. 言語活動の充実を図る指導方法の工夫

1. 道徳科における言語活動の充実

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけではなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である。道徳科の授業においてもその言葉を生かした教育についての充実を図ることが大切である。

(1) 道徳科の授業における言葉

道徳科の学習では、中心的な教材を活用し、児童の体験や教材に対する感じ方や考え方を交えながら話し合いを深めることが学習の中心となることが多い。その意味からも、道徳科の授業における言葉の役割はきわめて大きい。

国語科では言葉にかかわる基本的な能力が培われるが、道徳科の授業では、このような能力を基本に、教材や体験などから感じたことや考えたことをまとめ、発表し合ったり、討論や討議などにより意見の異なる考え方に接し、協働的に議論したり意見をまとめたりする。

具体的には、

- 教材の内容や登場人物の気持ちや行為の動機などを考える。
- 友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたり、話し合ったり書いたりする。
- 学校内外での様々な体験を通して感じ、考えたことを、道徳科の授業において言葉を用いて交流したりする。

このような活動の中で、国語科等で培った言葉の能力が生かされ、一層高められていく。

したがって、道徳科の授業においては、このような言葉の能力を総動員させて学習に取り組みさせることが、ねらいを達成する上で重要である。

(2) 自分の考えを基に書いたり話し合ったりする（表現する）機会の充実

話し合いは道徳科の授業によく用いられる指導方法であるが、話し合いを深めるためには、児童生徒一人一人に自分の考えをもたせ、効果的に表現させるなどの工夫が必要である。

ア 自分の考えを明確にさせるための書く活動

教材から感じた自分の思いや考えを、自己の生活、体験、知的経験等に引き寄せて明らかにするためには、「書く」という活動が大変重要である。

書く活動により、児童生徒が自ら考えを深めたり、あいまいであった考えを整理したりする機会となる。

したがって道徳科の授業においては、自分の考えを明確にさせるための書く活動に必要な時間を十分に確保することが大切である。

また、書く活動により、児童生徒の感じ方や考え方をとらえ、個別指導を進める重要な機会にもなる。更に、1冊に綴じられた「道徳ノート」などを活用することによって、児童生徒の学習を継続的に深めるとともに、その変容を見取ることが可能となる。

イ 個々の考えを広げ、深めるための話し合い活動の工夫

道徳科の授業において、自分の思いや考えをより多面的にとらえたり、新たな考えに出会い深化させたり、自己の葛藤の中から新たな価値観を見いだしたりしていくためには、

話し合い活動が重要な役割を果たす。

話し合い活動を深めるためには、意見を出し合う、まとめる、比較する等の目的に応じて場の設定等を工夫することが大切である。具体的には、

- ・児童生徒同士の顔が見えるような座席配置を工夫する。
- ・グループやペアによる話し合いを取り入れる。(話す機会が増え、多くの発言を引き出すことができる)
- ・同じ考えをもつ子ども同士が集まるように座席の移動を行い、一人一人の立場を明確にして話し合う。などの工夫が考えられる。

道徳科の授業における話し合い活動は、友達との話し合いにより自分なりの思いや考えが深まり、道徳的価値の自覚につなげていくことが大切である。そのためには、学級の中に全ての意見を受け入れる温かい風土が確立されていることが前提となる。

2. 道徳科の授業における「書く活動」「話す活動」の役割とねらい

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけではなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である。道徳科の授業においてもその言葉を生かした教育についての充実を図ることが大切である。

(1) 「書く活動」の役割とねらい

書くことは、教材との出会いで生じた自身の思いや考えを深めたり、整理したりすることにつながる。また、書く際には、論理的な思考力や適切な判断力が求められ、それらの能力の育成にもつながる。そして、書くという自己を表現する活動によって、自分の考えや立場を明確にすることもできる。そして、書いた内容は周囲の人たちと共有し、共通のものとすることもできる。

本研究では、これらを「書く活動」の役割・ねらいとおさえる。

(2) 「話す活動」の役割とねらい

話すことには、情報伝達の役割がある。また、他者に対して、自己についての理解をうながすねらいもある。そして、伝達や交流によってよりよい考えを生み出すという意味合いもある。

本研究では、これらを「話す活動」の役割・ねらいとおさえる。

◆ 「書く活動」の役割とねらい

- ①自らの考えを深めたり、整理したりする。
- ②論理的な思考力や適切な判断力を育成する。
- ③自分の考えや立場を明確にする。
- ④周囲の人たちと共有し、共通のものとする。

◆ 「話す活動」の役割・ねらい

- ①情報伝達のねらいがある。
- ②他者に対して、自己について理解をうながす。
- ③伝達や交流によってよりよい考えを生み出す。

「書く活動」と「話す活動」は、いずれも主として言語による表現活動である。前者は文字言語によって、後者は音声言語によって行われる。

学級で話し合うとき、事前に自分の考えなどを一人ひとりに書かせる。このことは、自分の考えを持つ機会になると同時に、「話す活動」に参加するための前提となる。

また、子どもたちは互いに話すことによって、違った考えや見方を知ることができ、新たな知識を習得することができる。この活動を通し、初めに考えたことが、その後に修正される可能性が生じてくる。

話したあとに改めて「書く活動」を組み入れることにより、これまでの学習を振り返り、自分の考えの変容を自覚することができ、自己評価をする機会になる。

3. 「書く活動」「話す活動」を生かした指導過程の工夫

「書く活動」と「話す活動」が道徳科の授業の中で意図的・計画的に仕組まれ、それぞれの活動を充実させることにより、道徳科のねらいである、道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深めることにつながると考える。このような指導過程を基本とし、道徳科の授業を行うことによって、目指す子ども像「自己の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする子ども」に迫っていきたいと考える。

【書く活動】



【話す活動】※ペアでの交流



【R2年度実践例】

開西中学校

「書く」ことで、考えを言語化し、「話す」ことで考えを「広げ深める」ことにつながることができた。

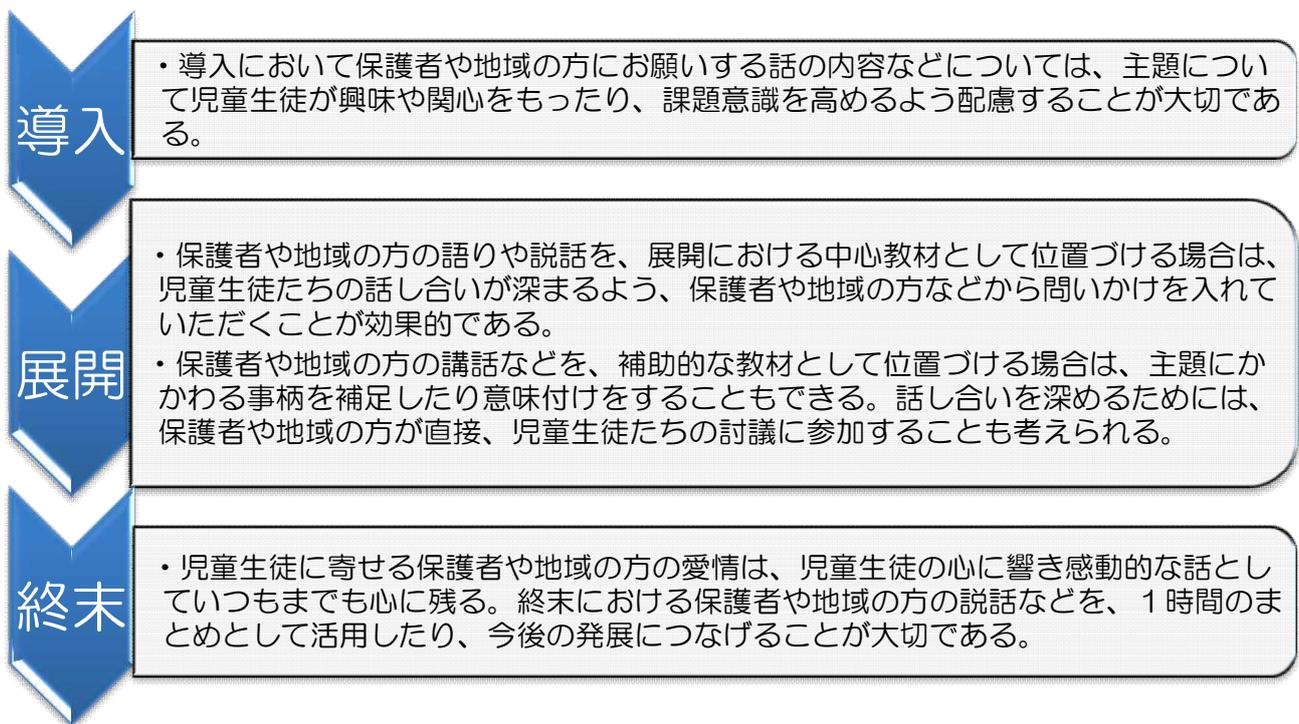
Ⅲ. 保護者や地域の方などの支援を得た指導の工夫

児童生徒に自他の生命を大切にするなど豊かな心をはぐくむためには、様々な人たちとのかわり合いの中で、多様な生き方・考え方を学ばせることが必要である。

そのためには、道徳科の授業において保護者や地域の方などを外部講師として招き、生き方や生命に関する貴重な経験など、主題や中心教材にかかわって話をしてもらい、質問を受けてもらうなどの指導の工夫が求められる。

1. 学習指導過程への位置付け

保護者や地域の方などの支援による指導を充実させるためには、次の視点で学習指導過程を工夫することが大切である。



2. 保護者や地域の方を迎えるための配慮事項

保護者や地域の方の支援を得るにあたって次のことに配慮することが必要である。

道徳授業の特質	事前打ち合わせ	あいさつやお礼
<ul style="list-style-type: none">・保護者や地域の方を招いた授業を授業改善の一つととらえ、道徳科の特質を押さえ、有意義なものとなるように工夫する。	<ul style="list-style-type: none">・保護者や地域の方から協力をいただく目的、授業のねらいと参加していただく形態などについて、事前に打ち合わせをしておくことが大切である。	<ul style="list-style-type: none">・保護者や地域の方に対する接し方やあいさつ、授業後のお礼の手紙など、児童生徒に対するきめ細やかな指導が必要である。

3. 道徳授業の発信と双方向の取組

児童生徒の豊かな心をはぐくむことは、1時間の授業のみで完結することはあり得ない。また、学校における指導のみで十分ではないことも言うまでもない。学校と家庭が同じ方向を向き、子どもの豊かな心を育てる思いを共有しながら道徳教育を推進することによって、初めて成果が表れるものとする。

そのためには、学校で行っている道徳授業に関わる積極的な情報の発信と、教師と保護者双方向の取組の推進が求められる。

第3章

令和2年度

授業実践

道徳科学習指導案

日時 令和2年11月25日(水) 2校時
児童 滝川市立滝川第三小学校
6年2組 30名
指導者 教諭 田中 圭輔

1. 主題名「故郷を愛する心」

【C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度】

2. ねらい

先人の故郷への思いや誇りを考えることを通して, 目には見えない自分の故郷のよさに気づき, 郷土を愛する心情を育てる。

3. 本時の教材

故郷への思いを描き続けた画家 岩橋 永遠 (北海道版道徳教材(小学校高学年用))

4. 主題設定の理由【指導観】

(1) 児童の実態【児童観】

項目	A	B	C	D
滝川や北海道, 日本の伝統と文化に興味をもっている。	13	9	4	3
外国の文化や人々に興味をもち, 関わろうとしている。	10	10	7	2

滝川市が作成している道徳の事前アンケートで, 今回の価値に関わる項目の結果が上である。項目を分析すると, 回答数29に対し, どちらもAとBを合わせると20以上となっている。しかし, 学級全体に「国や郷土を愛し, よりよくしていこうとする文化が育まれているか」というと, 不十分である。

なお, 我が国や郷土の伝統と文化を大切に, 国や郷土をよりよくしていこうとする態度を育てるため道徳科以外では, 次のような指導を行ってきた。

①国語「随筆を書こう」

郷土の伝統や文化, 先人の努力を知り, 郷土をよりよくしていこうとする態度を育てるため, 滝川市について随筆を書く学習を行った。書き上げた随筆を読み合うことで, 自分がこれまで気付かなかった滝川市の伝統や文化に気付いたり, 普段は意識していなくても滝川市に住んでいる家族や友人, 地域の方々が大きな心のよりどころになっていることを認識したりする児童の姿が見受けられた。しかし, これらの学習が郷土をよりよくしていこうとする態度の育成にまでつながったかという点, 十分とは言えない。今後, 地域な体験などについて考え, 郷土をよりよくすることについて考えていく必要がある。

②修学旅行, 自主研修との関わりでの指導

郷土の伝統や文化, 先人の努力を知り, 郷土をよりよくしていこうとする態度を育てるため, 修学旅行で行った自主研修の指導の折に, 滝川市の伝統や文化について触れた。空知地方各地で掘り出された石炭が, 滝川をハブとして鉄道で小樽に運ばれ, 当時の日本の産業の発展に使われたり, 過酷な肉体労働に励む人々の疲れの癒しとして菓子業が重宝がられ発展していったことを話した。子ども達は, 4年生の社会科で地域の過去の様子を学習しており, それも想起しながら当時の人々の姿を想像していた。

限られた時間の中での話であったので, 地域をよりよくしていこうとする態度の育成までには繋がらなかったため, 今後, 地域をよりよくすることについて考えさせる指導が必要である。

(2) 教材分析【教材観】

児童に、自身の故郷について新たなよさに気付かせるために、英遠が「江部乙は小さな町なんかではありません。この町は私にとって、とても大きなふるさとです。」と述べる場面を中心に話し合い、他者理解・価値理解を深めさせる。

しかし、いきなり英遠の抱く故郷への思いや誇りを考えることは難しいので、最初の発問として、母校の中学生の立場から「ふるさと」について考えさせる。母校の中学生は、英遠の言葉を聞いたことで、故郷への考え方に影響を受けており、この学習を行う児童にとって自我関与しやすいと考える。

最終的には、英遠が「大きな故郷です」と言った理由を考えさせることで、故郷に対する見方に新たな視点を持たせる。そして、郷土の見えないよさに気付くとともに、郷土をよりよくするためにどんなことが考えられるかを話し合う活動につなげていきたい。

(3) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送る上で心のよりどころとなるなど大きな役割を果たすものである。郷土を愛する心は、郷土での様々な体験など積極的で主体的な関わりを通して育まれていく。これらの体験などをもとに、国や郷土を愛する心について考えさせる指導が必要である。

第六学年の指導に当たっては、我が国の国土や産業、歴史などの学習を通して、受け継がれている我が国の伝統や文化を尊重し、さらに発展させていこうとする態度を育てていくべきである。ただ単に郷土に対する誇りや愛着をもつだけでなく、違った角度から郷土のよさに気付くとともに、我が国や郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し、国や郷土をよりよくしていこうとする態度を育てていきたい。

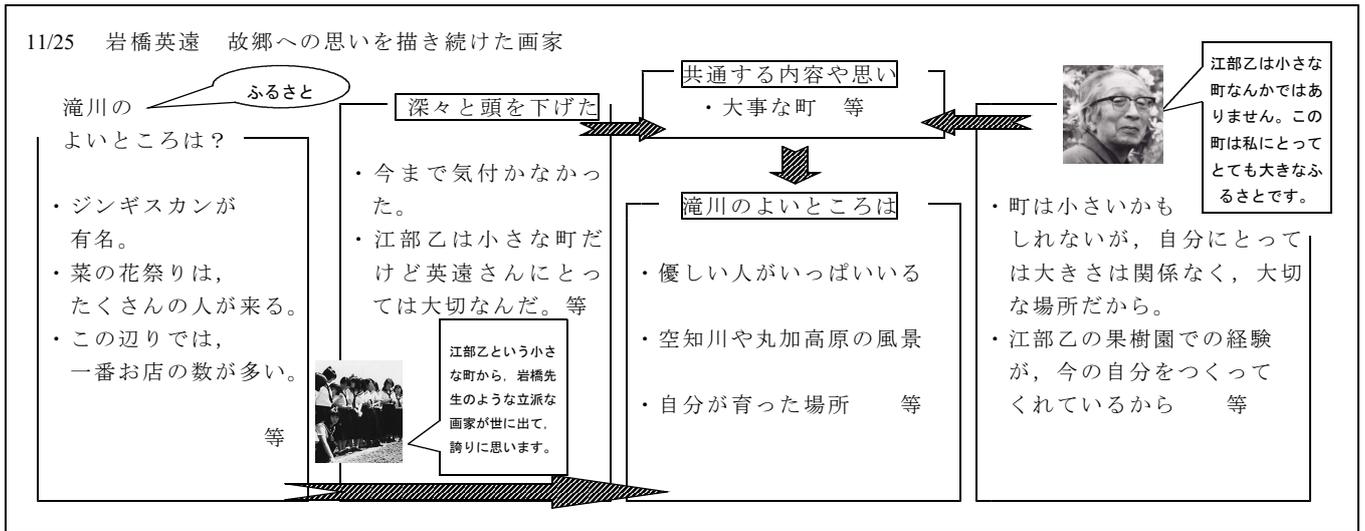
5. 指導の工夫

- ・パワーポイントを用い、江部乙町について簡単に触れる。
- ・最後に英遠自身が中学生に宛てた手紙を教師が音読することで、今後生きていく学習への変換を狙う。

5. 本時の展開

段階	主な学習活動	形態	・留意点 ◆評価
導入 5分	<p>○ 自分のまちのよさを思い浮かべる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分のまちのよい所は何でしょうか </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ジンギスカンが有名。 ・菜の花祭りは、いつもならかなり人が来る。 ・この辺りの市町村では、一番買い物ができる場所が多い。 	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値への方向付けとして、自分のまちの良さを想起させる場を設ける。 <p>【話す活動】</p> <p style="text-align: right;">全体</p>
	<p>○ 江部乙及び岩橋英遠について簡単に説明する</p> <p>○ 資料「故郷への思いを描き続けた画家」を読んで話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 英遠は、なぜ「大きな故郷です。」と話したのでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・町は小さいかもしれないが、自分にとっては大きさは関係なく、大切な場所だから。 ・江部乙の果樹園での経験が、今の自分をつくってくれているから。 	<p>個人</p> <p>個人から 集団</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを用いて説明する ・中学生の立場、英遠の立場の両面から考えることで、多面的・多角的に考えられるようにする。 <p>【話す活動】</p> <p style="text-align: right;">個人から小グループ</p>

7. 板書計画



《引用参考文献》

- ・『きたものがたり 実践例』
- ・『日本画家・岩橋英遠 ”虹” を旅する』 岩橋英遠著

【補助教材】

- ・『北海道版道徳教材 きたものがたり 岩橋英遠 故郷への思いを描き続けた画家』

道徳 『岩橋英遠』 学習シート

テーマ:「故郷とは何だろうか？」

組 番 名前()

◇ あなたにとって「滝川市」とは？ ◇

◇ 女子中学生と英遠に共通する思いは何でしょう？

★振り返り

(「故郷」について、自分はこう考えた)

(誰の意見に納得した・誰の意見で自分の意見への自信が深まった) など

<メモ欄 何か気になったり、メモしておきたいことを自由に書いておきましょう>

道徳科学習指導案

日 時 令和2年12月1日(火) 4校時

児 童 滝川市立西小学校

6年2組 24名

指導者 教諭 新谷 駿介

1. 主題名「誠実に明るい心で」

A- (2) 正直、誠実

2. ねらい

誠実に生きることについて理解し、明るい心で誠実に生活しようとする心情を育てる。

3. 本時の教材

「手品師」(教育出版 小学道徳6 はばたこう明日へ)

4. 主題設定の理由

(1) 児童の実態

項 目		ア	イ	ウ	エ	
A	1	自分の考えを大切にし、責任をもって行動している。	5	14	5	0
	2	自分の気持ちをごまかさず、みんなと明るく生活している。	10	9	4	1
	6	正しい考えをもって、物事に取り組もうとしている。	9	10	4	1
B	11	相手の立場にたって考え、自分と違う考えも大切にしている。	10	10	4	0

ア～いつもしている、そのとおりだ イ～だいたいしている、だいたいそのとおりだ
ウ～あまりしていない、あまりそうではない エ～全然していない、全然そうではない

日々の学校生活において、大きな衝突のない穏やかな学級である。しかし、その裏には言いたいことを直接言わずに気心の知れた仲間と不満やイライラを共有しているという実態もあった。(悪口を言い合うLINEグループがあることが、いじめアンケートで発覚。) また、本当は伝えたいことがあっても、衝突を避け相手を迎合してしまう面も見られる。本授業では本文を途中で切り、登場人物が向き合うモラルジレンマを予想して自分事として置き換える。「自分だったら、こうしたい」という意思決定について理由を含めて話し合うことを通し、実生活において「思ったことを伝える」ことの必要性に気付かせ、行動の選択肢を増やせるよう指導したい。

(2) 教材分析及び教材観

①大劇場を夢見て苦しい生活に耐えている腕利きの手品師の物語である。ある日、不遇な境遇に立たされた男の子に出会う。手品で笑顔を取り戻し、親切心から「翌日も手品を見せにくる」という約束を交わす手品師だが、約束をした直後にまたとない大チャンスが訪れる。古くからの友人がくれた「大劇場に立つ」大チャンスと男の子と訳した「明日も手品を見せる」約束のどちらをとるか葛藤する。物語の終盤で、誠実な手品師は男の子との約束を選び、幸せそうな描写で物語は終わる。

②本文中では、手品師は男の子との約束を選ぶことになる。チャンスと約束、どちらを取るにも正解ではあるが、その言動については、「正直・誠実」という価値に値するのかという研究者による指摘もなされてきた。自分ならどちらを選ぶのか、モラルジレンマの中で葛藤し、その後の展開に捉われず、「正直・誠実」に自己決定することの大切さに気付かせたい。

今回の授業は、「道徳読み」という手法を用いた実践である。教師による誘導が少なくないため、ねらいの価値項目「正直・誠実」とは異なる意見も出得る。子どもからどのような意見がでたとしても、それは多面的・多角的な価値として受け止めたい。

5. 指導の工夫

「価値項目」に焦点化してしまい、その他の道徳的価値に注視しなくなってしまうため、課題を設定せずに学習を始める。また、多様な考えを尊重すべく、板書も控えめにした。

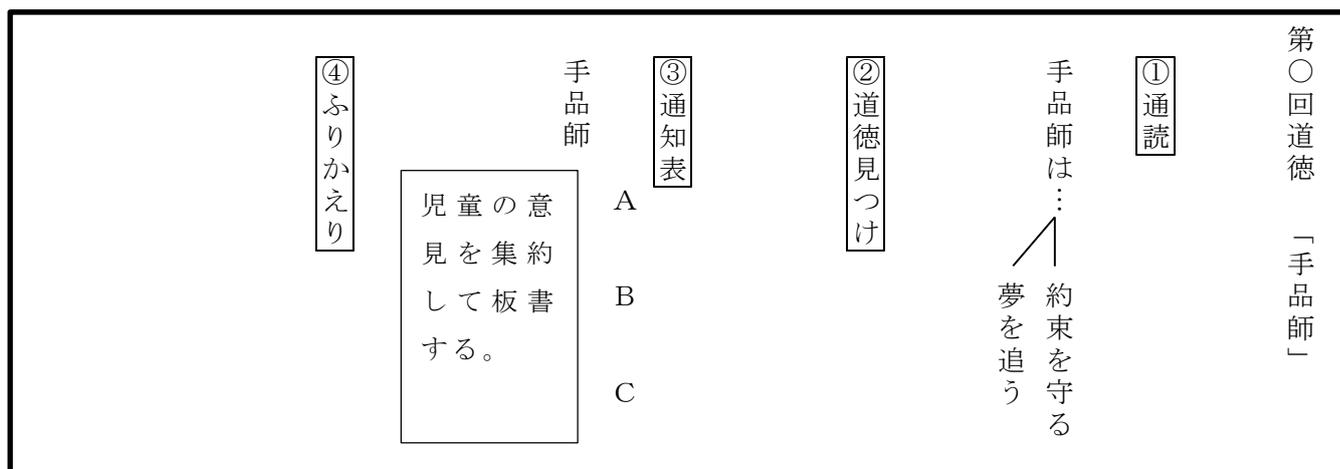
「考え、議論する道徳」の授業達成のために、「道徳読み」という手法に沿って授業を展開していく。本実践では、それぞれが持つ「道徳的価値」を判断基準として人物を評価するため、根拠をもって議論することができる。対立した意見はもちろん、同じ評価を付けた人の意見からも多様な考えを知る事ができるであろう。

6. 本時の展開

段階	主な学習活動	形態	・留意点 ◆評価
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範読 ・ 通読 ・ あらすじの確認 <p>手品師はこの後どうすると思うか確認する。 その後、教科書で続きを読む。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「夢」と「約束」どちらを選ぶのが正しいのですか？</p> </div>	個	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを配布 ・ 話を途中まで読む <p>・ 正解は無い（どちらも正しい）ことに気付かせる。</p>

読みを深める前に、自分だったらどちらを選ぶかを想起する。

8. 板書計画



《引用参考文献》

- ・教科書を使う道徳の新しい授業法 道徳読み（横山 駿也 監修 広山 隆行 編著 さくら社）

第 回 道徳

名前)

① 通読（先生の範読み）↓ 味読（みんなの音読）

② 道徳見つけ（本当にこれで良いのかな？を探す）

良いところ

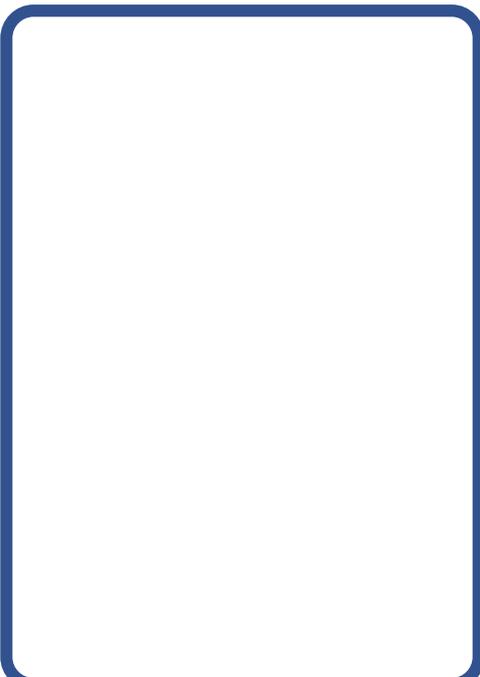
赤い線を引く

悪いところ

青い線を引く

③ 通知表（ABCとその理由）

名前



↓



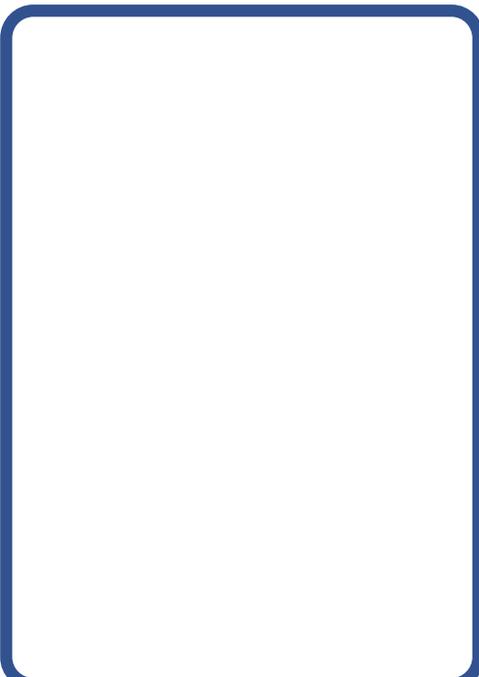
名前



↓



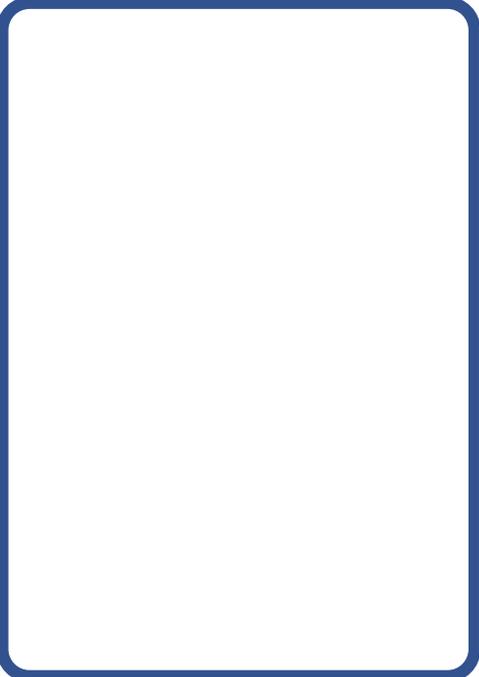
名前



↓



名前



↓



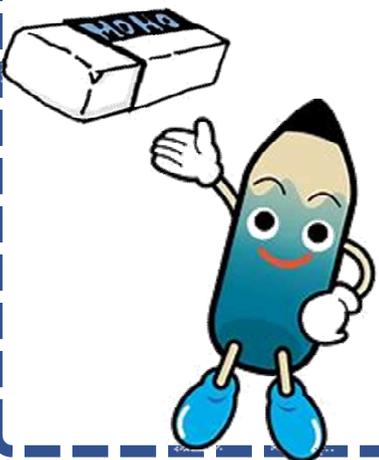
④ふりかえり(自分だったら…)



⑤授業の感想

A large empty rectangular box with a solid blue border, intended for writing reflections on the lesson.

メモ(友達の発表のなるほどポイントなど)



道徳科学習指導案

日 時 令和 2 年 1 1 月 1 9 日 (木) 5 校時
生 徒 滝川市立江陵中学校 2 年 3 組 3 6 名
指導者 教諭 川畑 摩沙子

1. 主題名「充実した生き方」

A- (3) 向上心、個性の伸長

2. ねらい

自分の短所・長所を見つめ、自分の良さを生かして充実した生き方を追求しようとする心情を養う。

3. 本時の教材

「五万回斬られた男」(中学道徳 2 とびだそう未来へ 教育出版)

4. 主題設定の理由

(1) 生徒の実態

項 目		ア	イ	ウ	エ	
A	1	自分の考えを大切にし、責任をもって行動している。	12	25	0	0
	2	落ち着いた生活を送るように心がけている。	18	15	4	0
	3	自分の長所を知り、自分の良さを生かそうとしている。	6	22	7	2
	4	目標をもって、失敗を恐れず何事にも努力している。	10	18	7	1
	5	正しい考えをもって、物事に取り組もうとしている。	14	20	2	1
D	1	自分の命、他の人の命を大切にしている。	30	7	0	0
	4	自分の弱さを乗り越え、目標に向かって生きていくことは、素晴らしいことだと思う。	24	9	4	0

ア～いつもしている、そのとおりだ イ～だいたいしている、だいたいそのとおりだ
ウ～あまりしていない、あまりそうではない
エ～全然していない、全然そうではない

2 学年に進級しクラス替えを経験して半年が過ぎた。全体的に温かく思いやりのある生徒が多く、困っている仲間を助けようとする雰囲気がある。また、部活動の部長を務めたり生徒会役員選挙に立候補したりと積極的に行動できる生徒もいる。アンケートの結果全般からは自己肯定感を高くもっている生徒が多いことが読み取れる。さらに、自分の弱さを乗り越えて、目標に向かうことのすばらしさを理解している生徒の割合も高いことが分かった。

(2) 教材分析及び教材観

「私」は長く活躍されている役者であるが、決して有名な方ではない。生徒にもなじみはないと思われる。大部屋俳優の一人として「斬られ役」に徹した役柄を演じ続けた経歴の持ち主である。その生き方にはかつての日本男児の美学とも言えるものがあり、自分自身が納得できる生き方を生き抜いたという確信がある。本授業では、福本清三の生き方を通して、自のよさを見つけ、今後充実した人生を送るために何を大切にしていきたいかを考えさせたい。

5. 指導の工夫

- (1) 福本さんの生き方と自分の生き方を比べることで思考を深めるため、事前にアンケートをとり自分自身について振り返らせておく。アンケート結果を提示することから、自分の本音を周囲に知られたくない生徒への配慮として、記入内容は匿名で提示することを伝え、安心して振り返りができる。
- (2) 4人以下の小集団を編成することで話し合いに参加しやすい環境を整え、言語活動の充実を図りたい。また、本文の内容確認は最低限にとどめ、思考の時間と意見交流の時間確保を図る。

6. 本時の展開 別紙

7. 評価

自分のよさを生かして生きていくために、大切にしたいことを見つけることができる。

8. 板書計画

<p>11月19日(木) 19 『五万回斬られた男・福本清三』</p>	<p>課題 自分のよさを活かして生きていくために、大切にしたいことを見つけよう。</p>	<p>○福本さんのよさ、頑張り</p> <ul style="list-style-type: none">・危険なこともやった・斬られることにこだわり・少しでも長く画面に映る斬られ方の工夫・主役を立てるための演技を考える・諦めない心・どんなことにも努力すること・謙虚さ・現状に満足しないで上を目指す・与えられた役割を果たした	<p>○自分のよさを活かして生きていくために、大切にしたいこと</p> <ul style="list-style-type: none">・笑顔でいること・友達を大切にすること・周りに流されない・苦手教科を少し勉強する
---	--	---	---

《引用参考文献》

- ・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編

【補助教材】

- ・自作パワーポイント資料

<別紙> 本時の展開

段階	主な学習活動	形態	・留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>○アンケート結果を交流する。 ・アンケート結果を見て、今日の学習への意欲を高める。</p> <p>・本文のあらすじを確認する。 ・『ラストサムライ』の出演シーンを視聴する。</p> <p>課題 自分の良さを活かして生きていくために、大切にしたいことを見つけよう。</p>	全体	<p>・アンケート結果を PPT で提示し、クラス内で交流させる。</p>
展開前半 (17分)	<p>○福本清三の生き方を感じ取る。</p> <p>○福本さんが頑張りや大切にしていることを感じる部分に、線を引きながら教科書を読む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大きな目標があったわけではない福本さんが、ハリウッド映画に出演できたのは、どんなことをしたからだろう？</p> </div> <p>・危険なこともやった ・斬られることにこだわった ・少しでも長く画面に映る斬られ方の工夫 ・主役を立てるための演技を考える ・諦めない心 ・どんなことにも努力すること ・謙虚さ ・現状に満足しないで上を目指す ・与えられた役割を果たした</p>	全体 個人 ペア	<p>・本文を範読する。 ・福本さんの頑張りや大切にしていることを感じる部分に線を引かせる。</p> <p>【書く・話す活動】個人で記入した後、全体で交流する。</p>
展開後半 (22分)	<p>○自分を振り返り、よさを見つける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分から見た自分のよいところや頑張っていること、得意なことは何ですか？</p> </div> <p>ワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>他人から見た自分の良さや頑張りは何でしょうか？</p> </div> <p>(1) 小グループで他己評価を行う(4人程度) 付箋を利用し、3人分記入する。 直接読んでから、本人に届ける。 (2) 他己評価を受けて、改めて、自分のいいところを記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>あなたがこれからも自分のよさを活かして生きていくために、どんなことを大切にしていきますか？</p> </div> <p>ワークシートに記入後、全体で発表する。 ・笑顔でいること ・友達を大切にすること ・周りに流されない ・苦手教科を少し勉強する</p>	個人 グループ 個人 全体	<p>【書く活動】個人で行う</p> <p>【書く・話す活動】 相手と自分の名前を記入させる。1人につき1～2つ記入させる。</p> <p>【書く・話す活動】 個人で記入後、発表させる。</p> <p>◆自分のよさを生かして生きていくために、大切にしたいことを見つけることができる。 (観察・ワークシート)</p>
終末 (6分)	<p>○事前アンケートとの関わり 教師説諭</p> <p>○授業のふり返りをワークシートに記入する。</p>	個人	

19 五万回斬られた男・福本清三

年 組 番 氏名

①大きな目標があったわけではない福本さんが、ハリウッド映画に出演できたのは、
どんなことをしたからだろう。

②-1 「 」から見た「 」

②-2 「 」から見た「 」

ふせんを貼るスペース

- ①ふせんには相手と自分の名前を書きましょう。
- ②相手のよさや頑張りは1~2つ記入しましょう。
- ③書き終わったら、メッセージを読んでから相手に届けましょう。
- ④班の人に書いてもらった内容を自分で否定しないようにしましょう。
- ⑤受け取ったふせんはこのスペースに貼りましょう。

③「これからも「 」のために、どんなことを大切にしていきますか。

④今日の授業を振り返って Aとてもできた Bまあまあできた Cあまりできなかった D全くできなかった

- 自分のよさは見つかりましたか。 A B C D
- 自分の知らない自分のよさは見つかりましたか。 A B C D

• 授業の感想

道徳科 学習指導案

日 時 令和 2 年 11 月 27 日 第 6 校時

生 徒 滝川市立開西中学校 1 年 B 組 22 名

授業者 富樫 雅美

1. 主題「安全への配慮」 A 節度、節制

2. ねらい

安全への配慮としてすべきことを、話し合いを通して多角的に捉え、望ましい生活習慣をつけようとする心情を育てる。

3. 本時の教材

「一日前に戻れるとしたら」（出典：「とびだそう未来へ」教育出版）

4. 主題設定の理由

（1）生徒の実態

項 目	ア	イ	ウ	エ
落ち着いた生活を送るように心がけている	5	1 2	5	0

滝川市の道徳アンケートのうち【A 節度、節制】についての結果が上記である。8割近くが肯定的な回答をしている。直接「安全への配慮」に結びつく質問ではないが、関連性はあると考える。

四月に入学してすぐに休校になった影響もあり、1学期には、中学校の生活には不慣れな感じを受けていた1年生も、2学期になり学校祭などの行事を経験する中で、開西中学校の生徒としての自覚が芽生え、落ち着いた生活を送れている生徒が多い。また、先日の「防災訓練」では、「予告なし」の「不審者対応」を実際のこととしてとらえ、行動することができていた。一方で、「慣れ」による気の緩み、緊張感の薄れを感じることもある。この授業を自分たちの生活を振り返る機会とし、より充実した生活に結びつけていってほしい。

（2）教材分析及び教材観

- ①「東日本大震災」「中国・九州北部豪雨」で被害にあった方や関係者三人の体験談が紹介されている。災害に対しての備えについて「もし一日前に戻れるとしたら」という観点で語られている。「食料の備蓄」「備蓄品の定期的な確認」「居住地の危険性を学ぶ」「自分の身は自分で守るという姿勢」「寄り添うこと」「家族・仲間」などの「大切なこと」が、現実感をもって伝わってくる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・缶詰などの食料などを買っておく。 ・災害用物品の定期的な確認。 ・住んでいる場所の危険性／どこに逃げる。 ・自分の身は自分で守る。 ・家族・仲間・友人を普段から大切にすること。 ・寄り添うこと。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>一人目の人は、なぜ、災害への備えをしていなかったのでしょうか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなに大きな地震が起こると思っていなかったから ・仕事が忙しかったから 	<p>個人 全体</p> <p>ペア</p> <p>全体</p> <p>指名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書にサイドライン <p>【話す活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身にあてはめてできているかペアで交流 <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身はどうだろうか振り返る
<p>後半 14分</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学校の中や外で「危険だ」と思ったこと「危険なめに遭った」と思ったことは何ですか。もし、その少し前に戻れるとしたら何をしますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・交差点で車にぶつかりそうになった（交差点では、いったん止まって左右を確認する） ・友達と追いかけてっこをしているとき、教室のドアを閉められて手を挟みそうになった。（教室などでは追いかけてっこをしない） ・体育館でボールを思い切り投げて硝子を割った人がいた（硝子を割る前も何度もしていたので、見たらすぐに注意する） <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「安全に配慮して生活する」ことで、どのようなことを得られるのでしょうか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのゆとり ・いざというときの判断力 ・将来の安全 ・安心 ・支え合える人間関係 	<p>個人</p> <p>ペア</p> <p>全体</p> <p>個人</p> <p>ペア</p> <p>全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「災害」という特殊な状況だけではなく、日常生活にも目を向けさせる <p>【書く活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入 <p>【話す活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由交流（五人以上） <ul style="list-style-type: none"> ・指名 <ul style="list-style-type: none"> ・「安全に配慮して生活する」ことの意義を考えさせる。 <p>【書く活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入 <p>【話す活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで話しあう <ul style="list-style-type: none"> ・指名

終 末 分	6	○今日の授業で感じたことや考えたことを書く ----- 今日の授業を通して、あらためて考えたことや 感じたこと、これからの生活に活かしていきたい ことなどを書きましょう -----	個人	◆危険を回避するために必要な姿勢や習慣、安全に配慮して生活することの意義について考えたことを書いているか。
-------------	---	---	----	---

7. 評価

- ・危険を回避するために必要な姿勢や習慣について考えを広げることができた。
- ・安全に配慮して生活することの意義について考えることができた。

8. 板書計画

<p>11 / 27 一日前に戻れるとしたら</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">安全に配慮（危険を回避）して生活する</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">災害による被害を少なくするために日頃から大切にすべきことはどんなことでしょうか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・缶詰などの食料などを買っておく。 ・家族・仲間・友人を普段から大切に作る。 ・寄り添うこと。 ・災害用物品の定期的な確認。 ・住んでいる場所の危険性／どこに逃げる。 ・自分の身は自分で守る。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「危険だ」「危険なめに遭った」 もし、その少し前に戻れるとしたら</div> <ul style="list-style-type: none"> ・交差点では、いったん止まって左右を確認する ・教室などでは追いかけてこをしない ・危険な行為は、見たらすぐ注意する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「安全に配慮して生活する」ことで、どのようなことを得られるのでしょうか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのゆとり ・いざというときの判断力 ・将来の安全 ・安心 ・支え合える人間関係 	<p style="text-align: center;">2018.9. 6</p> <p style="text-align: center;">電気が止まった ご飯が炊けない お湯が出ない</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 20px; text-align: center;">ハザードマップ</div>
---	---	--

【補助教材】

- 滝川市ハザードマップ
- 避難場所一覧(広報たきかわ)
- ワークシート(別紙)

14 一日前に^{もと}戻れるとしたら

教科書78～81ページ

～ に配慮（ を回避）して生活する～

- 学校の中や外で「危険だな」「危険なめに遭った」と思ったことは何ですか。
- もしその少し前に戻れるとしたら何をしますか。



- 安全に^{はいりよ}配慮して生活すると、どんなメリットがあるのだろう。

- 友達の意見を聞いて、気づいたこと・なるほどと思ったことを書こう。

- 今日の学習であらためて考えたことや感じたこと、これからの生活に生かしていきたいことを書こう。

- ☑ 今日の学習をふり返って、あてはまるものに○をつけよう。

とても ←————→ まったく

自分に引きつけてしっかりと考えられたか。	A	B	C	D
友達の考えや話し合いから、新しい気づきや発見があったか。	A	B	C	D
自分の生き方について考えを深めることができたか。	A	B	C	D

「滝川市避難所等変更計画書」が決定しました

平成31年3月7日に策定した「滝川市避難所見直し基本方針」に基づき作成された「滝川市避難所等変更計画書」(案)については、住民説明会、意見募集(パブリックコメント)を経て、令和2年3月に決定しました。

●「滝川市避難所等変更計画書」に基づく新たな避難所の運用について

本計画書については、令和2年度中に市民周知を行い、令和3年4月1日から運用を開始いたします。
なお、令和2年度の避難場所については、従前のとおりです(下表A・B参照)。

●「滝川市避難所等の変更説明会」および「避難所運営研修会」の開催について

市では、新たな避難所の運用について、令和2年度中に市内各所で説明会および研修会を開催します。

なお、開催時期等の詳細については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、広報たきかわ等で改めてお知らせいたします。



A 地震の場合の避難場所〔令和2年度のみ〕

避難対象地区	避難場所
中島町、空知町、新町、花月町	明苑中学校、滝川第三小学校、こどもセンターめ・も・る
栄町、大町、本町、東町、緑町、明神町	東地区コミュニティセンター、滝川高等学校、滝川中央保育所、本町地区コミュニティセンター、中央児童センター
二の坂町、文京町、黄金町、朝日町、一の坂町、南滝の川、流通団地	滝川工業高等学校、滝川第一小学校、東小学校、中地区コミュニティセンター、三世代交流センター北地区分館、江陵中学校、滝川市スポーツセンター第1・第2体育館
北滝の川、滝の川町、屯田町	滝川第二小学校、北地区コミュニティセンター
東滝川、東滝川町	東滝川地区転作研修センター、花・野菜技術センター
西町、泉町、幸町、有明町、扇町、西滝川	開西中学校、西小学校、滝川西高等学校、三世代交流センター、扇町地区コミュニティセンター、幸町地区コミュニティセンター
江部乙町	江部乙小学校、江部乙中学校、農村環境改善センター、江部乙保育所、江部乙地区コミュニティセンター(11月まで)
全地域	滝の川公園(運動広場等)、滝川ふれ愛の里(広場等)、丸加高原健康の郷(広場等)

B 大規模な水害の場合の避難場所〔令和2年度のみ〕

大規模な水害(石狩川、空知川の越流・破堤等)が発生すると、浸水想定区域の避難場所が水没するおそれがありますので、その場合はより高い場所への避難となります。

避難対象地区	避難場所
栄町、明神町、有明町	滝川第一小学校
空知町	東小学校
大町、一の坂町、幸町	江陵中学校
西町、本町	滝川工業高等学校
緑町、東町	滝川市スポーツセンター第2体育館
泉町、扇町、西滝川	滝川第二小学校
江部乙町	江部乙小学校、江部乙中学校、農村環境改善センター
二の坂町、文京町、黄金町、朝日町、南滝の川、流通団地、中島町、新町、花月町	滝川工業高等学校、江陵中学校、滝川第一小学校、東小学校、滝川市スポーツセンター第1・第2体育館、中地区コミュニティセンター、三世代交流センター北地区分館
北滝の川、滝の川町、屯田町	滝川第二小学校、北地区コミュニティセンター
東滝川、東滝川町	東滝川地区転作研修センター、花・野菜技術センター

問合せ先 防災危機対策室 Tel.28-8003

授業実践の反省 ～研究協議より～

滝川第三小学校 田中 圭輔 教諭の授業

☆指導の工夫について

(1) 教材文を補う資料の提示

- ・岩橋永遠や江部乙への興味や理解を深められるパワーポイントなどの資料の提示が効果的だった。
- ・写真を黒板に掲示したことによって、子どもたちの視線が黒板に向いていたと思った。
- ・作品の画像を見せることで岩橋永遠を身近に感じられたと思った。
- ・パワーポイントの資料は有効であったと感じた。最初に内容を確認していたが、流れとしては「まちのよい所を考える」→「(現在の)滝川市出身の画家がいる(パワーポイントで紹介)」→「本文を読む」でもよかったのではないかな。
- ・導入で岩橋英遠の人物像について概説したことで、児童は本時の学習の「土台」を築けたように感じた。



(2) 今後の学習に生かそうとする姿勢を児童にもたせるための手立て

- ・滝川市のよさを考えることが、郷土を愛する心の醸成に繋がっていた。
- ・岩橋英遠から女子中学生への手紙を封筒から出して読んだことにより、自分たちに向けて読まれているように感じた児童もいたのではないかな。
- ・なぜ手紙を持っていたのかが気になっている児童がいたが、資料の出典などを伝え、より身近に感じられたのではないかな。
- ・最後の手紙は、耳からの情報だけで処理するには少々難しそう感じた。文字と耳との両方から伝える方法も場合によってはありだと思った。
- ・「手紙」は、子どもたちの心にダイレクトに響くものだと思った。十分に理解できたとは言えないかもしれないが、「ふるさと」が人にとって大きな存在であると感じ取ることができたのではないかな。
- ・岩橋英遠からの手紙を読み上げることで、「離れて初めて感じる故郷への思い」を感じることもできたのではないかな。また、それを将来の自分自身と重ね合わせることで自我関与しやすく、とても有効な手立てだと思った。

☆授業全般について

<導入>

- パワーポイントを使った効果的な導入で、スムーズに本時には入れていたと感じた。
- 滝川のよさについて考えることで、“故郷”についてのイメージが膨らんでいた。ねらいとする道徳的価値への方向付けができていた。
- 岩橋英遠の話から江部乙の話になり、作品の話になり、滝川市のよいところを考える活動に入っていたので、教材と活動とを関連付けて進める展開が早く感じたが、子供たちは自然とその活動に取り組みしていたので日頃からの活動の積み重ねなのだろうと思った。
- 滝川のよさについて、考える時間と記入する時間をきっちり分けることで、より真剣に考えることに繋がっていると感じた。
- ワークシートの問い(あなたにとって滝川市とは)と発問(滝川市のよいところは)の内容が一致せず、幅広い意見が出された反面、展開後半の「自分の生活の振り返り」との関わりが曖昧になったように感じた。
- 故郷への自分なりのイメージをもたせてから本文に入ることで共感しながら、教材に入れたと思った。
- 「故郷」という言葉を定義づけしてから内容に入っており、とても丁寧な導入だと感じた。

<展開：前半>

- 実際に女子中学生と同じ行動をトレースすることで、「なんで？」という問いが浮かんできたと思う。話し合いのよいきっかけ作りになっていたと思う。中学生にとっては「小さな」町で、著名人を輩出したことに誇りを持っているが、岩橋英遠にとっては、今の自分を支えてくれる「大きな」存在であることに気づき、話し合いが加速していた。
- 発問が2つあったが指導案の最後までいかなかったことを考えると1つにしてもよかったのではないか。
- 発表時、言葉に詰まった児童に対して「周り助けてあげれる？」「続けてあげて」という声かけは、発表者に対して安心感を与えられると感じました。自分の中に、児童の発表をその子以外が伝えるという考え方がなかったのが勉強になった。
- 教材の扱い方（女子中学生の考え→英遠の思い→共通する思い）はスムーズで、学習の目的を達成するものになっていると思った。
- 交流をするときの声かけの仕方が勉強になった。「学びあい」を意識させ、深い思考を促す声かけとなっていた。子供たちが主体的に話し合っているのが伝わってきて、日常の授業の積み重ねを感じた。
- 動作化によって深々と頭を下げた女子中学生の心情に迫らせる活動は有効だと感じた。ただ、最初に「深々とはこうする」と教師が示すのではなく、まず児童にやらせてみてほしいかもしれないと思った。その上で、浅く礼をしている児童に「何か違いますか？」と問いかけると「深々と」の意味を考えるきっかけになったのではないか。

<展開：後半>

- 社会科や総合等で、滝川のよさについて学習を深めているのであれば、自分事として考えやすいと思った。
- 「母校の女子中学生が、姿勢を正し、岩橋永遠に深々と頭を下げたのはなぜでしょう。」の発問に対して「小さいと言ってしまったから」と応えたのは、今時の子供の考え方だと思った。否定しているわけではないが、相手が望んでいない内容だった時に否定してしまったと捉えがちな感じがする。
- 「問い返し」はとても大切だと思った。

<終末>

- 岩橋永遠が書いた手紙を読むことで、岩橋永遠の人柄や故郷をおもひがちが児童に伝わり、自分事として考える手立てとなったと感じた。
- 手紙を封筒から出して読んだことで、子供たちがぐっと引き込まれていたように見えた。
- 岩橋永遠さんが中学生に当てた手紙は、子供たちを引きつけているように思った。
- どうしたら「郷土をよりよくしようとする気持ち」に繋がるのだろうかと思った。例えば、岩橋英遠の思いの読み取りをもとに、「自分の故郷である滝川が、この町の人々にとってどんな場所であってほしいか」を考え、「滝川をそんな場所にするために、今の自分・これからの自分にできることは何か」などを考えさせるのはだろうか。（…とすると、導入の発問も、客観的に見た滝川市のよいところ、ではなく、「あなたにとって滝川市はどんな場所？」という『自分の考え・思い』に絞った方が繋がりそうだ）そんな風に考える「自分自身」が故郷をつくっていくのだ、という思いをもってもらえたらよいと思った。
- 児童の記述内容が深まっていると感じた。
- 最後の発問は、「二十年後のあなたにとって、故郷・滝川はどのような町なのでしょう」というように導入と同じことを、少し異なる視点で考えさせるやり方もあるように思った。

※その他

- 話し合いの活動場面では、自然と役割分担がされたり、拍手が起こったりと、ふだんの指導や学級経営が見えた。
- 内容の濃い教材だった。これを1時間でこなすのならば、かなりテンポよく進めるか、設問の軽重をつけることが必要だと感じた。グループでの話し合いでは、なごやかに進んでいたのと、途中で発表が進まなくなった子をサポートして代わりに発表する等、教室内の雰囲気よさが伝わる授業でした。
- 発表者に対して自然と拍手が起こったり話し合いがスムーズに進められたりしていて、とても暖かい雰囲気の中だと感じた。
- 教材のねらい（故郷のよさに気づき、郷土を愛する心情を育てる）、テーマ「故郷とは何だろうか」、本時のねらい（様々な角度から故郷のよさに気づき、発展させる責務を自覚する）、本時の評価（まちのよさ、郷土をよりよくしようとする気持ちを書く）…幅の広い観点項目だけに、成長を期待する道徳的価値についてどこまでのを絞るかの「ほどよいさじ加減」が難しいと感じた。（あまり絞ると思考が広がらず、的が広すぎると気づいてほしいところにたどり着かないことが考えられる）
- 「ふるさとだという認識ができていません」という児童の素直な思いを書いていたところが素晴らしいと感じた。反省の中の「本時だけで育まれるわけではない」とあったが、きっと、他の子ども、ここから長い時間をかけて「ふるさと」というものに向かい合っていくのだろうなと思った。

授業実践の反省 ～研究協議より～

西小学校 新谷 駿介 教諭の授業

☆指導の工夫について

(1) 多様な考えを表出させる方策

(学習課題について、板書について)

- あえて学習課題は設定せずに行ったが、この教材文は手品師が約束を選ぶか夢を選ぶか、内容がはっきりしていたので、学習課題を提示してもよかったのではないか。
- 通知表の結果を板書したことにより、子供たちの意見が視覚化されよかった。
- 登場人物に通知表をつけるという活動は、課題解決に向かうことへ困難を感じている児童には取り組みやすいと思った。
- 二つの選択肢で葛藤させ考えさせる手法は、とても有効だと感じた。児童が積極的に授業に参加できていると思った。
- 本時の学習課題を設定し児童に伝えた方が見通しをもてて学習しやすいのではないかと思った。
- 学習課題を設定することにより、考えは狭まるのだろうか。様々な発想があり、それを児童から受け取り、広げていくことは大切だと思うが、最終的に発問に合わせた判断を話し合わせるなら、その時点で学習課題を提示するなど、タイミングを工夫すればよいのではないか。ワークシートを見ると授業の感想の観点が幅広いようですが、「自分ならどうするか」「いろいろな考えを聞いてどう思ったか」を最後に表現させるためには、ある程度提示があった方がよいのではないかと感じた。
- 板書を書かないことが、多様な考えを尊重することになるのだろうか。お互いに議論し、出し合った意見を耳からの情報だけで整理できる児童と、文字で改めて見ることで再確認できる児童がいると思う。板書する必要のある内容かどうか吟味する必要があると思うが、例えば今回、せっかく評価の人数を板書しているので、それぞれの評価の児童がどう考えたのかを簡単に板書し目視することで、新たな考えを引き出した可能性もあったのではないか。(話し合い時間を確保するためには、なるべく無駄な板書はなくしたいところではありますが…バランスは難しい。)
- ネームプレートを黒板に貼らせるなどして児童一人一人の「評価」を可視化してもよかったのではないか。



(2) 登場人物の評価について

- 評価をすることで、それぞれの登場人物の行動をどのようにとらえるのか立場がはっきりしてよかった。
- 毎時間、各登場人物の評価を行っているのであれば、今回と同じ流れでいいと思うが、男の子の評価は、必要なかったのではないか。
- 本時の流れで行くならば、「手品師」だけにしぼって評価すると、より指導者の意図に近づく授業になったのではないか。
- 子供たちが意欲的に活動に取り組んでいるように見えた。
- 手品師、男の子、友人の3人につけたことで、結果的に立場の違う見方や考え方を持てたのではないか。ただ、展開の後半で意見交流をする時間を確保するためには、指導案通り手品師の通知表だけでも良かったと思う。
- 評価の基準を児童に委ねる方法は、やり方の1つとしてよかったのではないかと思う。ただ、もし「手品師は自分の気持ちに正直か」という基準があったとしたら、(最終的には迷い無く選択した結論が出ているが)「大劇場に出たいという正直な気持ちを押し殺している」など、別の発想に繋がる可能性もあるのかなと思った。
- 道徳読みは有効な手法だと思いますが、やはり児童の思考次第で価値項目がぶれてしまうことが課題であるように思った。そういう観点からすると、通知表をつける対象を教師側で絞ることが望ましいのではないか。それによって児童の思考の枠組みをある程度明確にすることができ、結果的にねらいとする価値項目から大きく逸れることなく授業が進むと考える。
- 面白い取り組みだと思った。ABCだと、Cが「悪い」という印象になってしまうので、違う表現ができたらいと感じた。記述を重視しているそうですが、子どもたちの考え方・視点がさま

ざまで、それを引き出している点で、効果的だと感じた。

☆授業全般について

<導入>

- 話を途中まで読んで、結末を児童に予想させたことにより、より自分事として、興味を持って話を読むことができていたと思う。
- 話し合いの時間を確保するために、前半部分の工夫が必要であったのではないか。
- 時間確保と本時の意図を考えると、教材の分割提示は必要なかったのではないか。
- 夢と約束どちらかを選ぶとし、中間を設定しなかったのは、論議する空間を作り出すためか。
- 最初から結末を見せず、子どもたちに予想させるところが面白いと思った。その予想は2つに分かれ、実際の結末とは違う予想をした子たちの方が多かったので、子どもたちはどうしてそう考えたのかを聞いてみたかった。
- 道徳見つけのあとの交流は、難しい活動かなと思いましたが、子どもたちが真剣に読んで考え、手が動いていたので、面白い手法だと思った。
- 名前カードを黒板に貼っていくことで、だれがどのように考えているかがわかりやすく、後の議論へのモチベーションも上げられていたと思う。
- 児童の実態から、「自分だったらこうしたい」という意志をぶつけ合い、実生活に生きるトレーニングにさせるためには、授業のメインを「手品師はどうすべきか」の議論にすることもよかったのではないか。その場合であれば、結論は最後に伝えてもよいと思った。
- ネームプレートで意思を表現する場面があったが、個人の意思がそこに張り出されていることが生かされる展開にはなっていないのではないか。今回のような展開であれば拳手等で簡単に確認することでもよかったのではないか。マグネット掲示に要した約2分を議論に充てられたと考える。
- 「手品師はどちらを選ぶと思う？」という発問に対し、児童は何を根拠に答えたらいいのかわからないのではないかと感じた。この話には手品師の人物像を示す記述は非常に少ないため手品師の立場で考えることは難しく、「ただ何となく」で答えることになるのではないか。そういう意味では、「手品師はどちらを選ぶべき？」という発問でもよかったかもしれない。

<展開：前半>

- 「道徳見つけ」というのが面白いと思った。
- グループでの話し合いが、しっかりとできていた。
- 各登場人物を評価することで、自分がどの立場に立って意見をもつか、はっきりしてよかった。
- 「道徳みつけ」というキーワードで一斉に作業に映ることができていたのがすごいと思った。
- 児童が自然と道徳見つけに取り組み始めていて、これまでの指導の積み重ねがあってこそだと感じた。
- 「道徳見つけ」をした後に「手品師はどうしたと思うか」を考えさせたら、児童の意見は少し違ったかも知れない。発問と読み取りをどのタイミングで、どういう手順で行うと、より考えが深まるのか工夫することも必要だと感じた。
- 今回のような「葛藤」教材では「道徳読み」はとても有効であるように思った。一方で、「感動」教材の場合は分析的、批評的な読みがそぐわない場合もあるため、また別のアプローチが必要だと感じた。

<展開：後半>

- 話し合いのねらいや視点を明確にすると、討議がさらに深められたのではないか。
- 子供達は、自分で探した道徳をもとに、他の子ども達との関わりの中で、それぞれの思う道徳的価値を深めていたと感じた。話し合い活動も大変慣れている様子で、学級の風土の上に、安心して活動している姿が印象的だった。
- 本時の流れで行くならば、手品師だけの評価にすると時間確保も狙えるので良かったのではないか。
- 同じABCをつけた人ごとに集まって話し合ってみてもよいと思った。その方が話し合いの内容が深まるかもしれない。ただ、時間的に難しいかなとも思った。

- 児童の真剣に交流しあう姿が印象的だった。児童の感想を読むと、自分ならどちらを選ぶか、その理由についてもそれぞれしっかり考えて書いている子が多かったので、もっと児童の議論を見てみたかった。
- 「どうせひまだから」と男の子と約束したけど、じゃあひまじゃなかったら相手にしなかったのか？という発想が面白かった。(読み取り方によっては、その時点ではある意味誠実ではないが…)
- 「道徳見つけ」という活動について、様々な価値判断？をするという点で面白い取組みだと感じた。一つの価値項目に必ずしもとらわれなくてもよいのではないかと、考えているからです。ただ、今回は、手品師にだけ焦点をあてた方が、深めることができたかもしれないと思った。自分の夢をとるか、約束を守るのか、という葛藤を掘り下げるだけでも、そこに様々な思いや考えがでてきたのではないかと、通知表などの子どもたちの発言の様子から感じた。

<終末>

- 自分だったら、と考えさせる場合は、2択以外にも他の方法があるように思った。教師から投げかけてどちらか？ではない新しい方法が出てきてもよかったと思った。
- 本時の内容を、自分に還す時に、それぞれの子供が本時で深めた価値が異なるが故に、評価が難しいのではないかと感じた。
- 難しかったと感じた子がいた反面、今までで一番意見が書けた、悩まされたと書いている子もいたので、子供たちが思考を働かせるとてもよい活動だったのだと思った。
- ふりかえりのあとに感想をさらに書くのは少し大変ではないかと思った。ふりかえりのみだけでもいいと思いました。
- グループ体制のまま自分の振り返りを行っていたが、席を元に戻して、自分自身と静かに向き合う時間も大切ではないかと思う。また、教師が自分の経験を話していたが、それによりその話に乗ってしまい振り返りを書く時間が少なくなってしまった児童もいたのではないか。最後こそ、自分の考えをしっかりと書かせるための配慮が必要なのではないかと思った。
- 道徳の授業は具体的に考えて抽象的にまとめるというパターンが多いように思う。それだと価値項目に直接的に迫れる一方で、どうしても最後は一般的「感想」に近い振り返りで終わってしまう子供も少なくない。それに対し、今回の授業は、具体的な状況を「客観的に判断する」→「主観的に判断する」という流れのままオープンエンドを迎えるという形のため、道徳的価値と具体的な行動をリンクさせて振り返らせることができていたように思った。

※その他

- ・ワークシートの評価のところは、子供たちは理由をたくさん書いていたので。手品師と友人だけに理由を書くところをもう少し大きくしてあげても良かったのではないか。
- ・「道徳読み」は、本時だけでなく、年間を通した「横断的評価」が必要とされる方法ではあるが、子ども達の言葉で紡いでいけるというよさもある方法だと思った。
- ・こうしたらよいという方向性や答えが出る教材ではないと思うので、子供たちの考えを広げながら、もやもやした気持ちや疑問だけが残って終わりにならないようにする扱い方が難しいと感じた。
- ・何気ないことだが、プリントや板書の活動内容に番号が振ってあるのは、児童が見通しを持って活動できる手立てとして、とてもよいと思った。
- ・道徳読みについてはあまり詳しくないが、今回の児童の様子を見ると、自分の考えをある程度整理する力がついているように見えるので、授業のどこに重点を置くとねらいの達成に繋がるのかを熟慮する必要があると感じた。おそらく「道徳読み」が効果的な教材と、そうではない方法でもねらいに迫れる教材があるのだろうと思うが、今回の教材は児童にとって考えやすいようだったので、道徳見つけにかける時間よりも生徒の議論の時間を増やすなど、教師側がねらう価値に向けてコーディネートすることが大切のように感じた。
- ・「自分だったら…」をもとに視野を広げるのか、視野を広げたあとにそれをもって「自分だったら…」を考えるのか。児童生徒の実態や教材に対する見極めが難しいと感じた。
- ・子どもの感想にもあったように葛藤のある授業だったと思う。子どもたちが一生懸命に考えて発言していて、素敵なクラスだなと感じた。

授業実践の反省 ～研究協議より～

江陵中学校 川畑 摩沙子 教諭の授業

☆指導の工夫について

(1) 教材に合わせたアンケート(の実施)

- ・自分にとって、身近な内容のアンケートとなっていてよかった。
- ・アンケートの結果を導入部に提示することは、本時の内容を「自分事」として捉えられるようなしかけとなっていた。
- ・アンケート項目によっては、「好き」「嫌い」の二択に絞ってもよかったのではないか。
- ・アンケートの結果(本時のポイント)をテレビ画面に映し出すことにより、生徒の注意を引き付けていた。
- ・生徒たちがアンケート結果を共有したことにより、授業への意欲の高まりに繋がっていた。
- ・福本さんの生き方と自分の生き方を比べるという観点で活用できているのか疑問が残った。



(2) 言語活動の充実を図るための方策(話し合い、教材文の確認等)

- ・小集団による話し合いは、スムーズに行われていた。
- ・グループでの話し合いは、時間の確保という面からも効果的だった。
- ・内容の確認はしっかりできていたが、教材の長さや活動のボリュームを考えると、教材文の読み取りを短時間で済ませる方がよかったのではないか。
- ・グループ活動の場面で、友達に付箋を渡すこと以外は、机を離れていた方が集中でき、自分と向き合えると思った。
- ・全体的に「話し合う」というよりも「言葉を伝える」という活動がメインになっていた感じがした。互いに意見を述べ合うことで考えを深められる「発問」を設定できるとよいと思った。

☆授業全般について

<導入>

- 実際に活躍する福本さんを映像で目にしたことにより、福本さんについてイメージしやすく、真剣に考えるきっかけとなっていた。
- 映像や写真は効果的であった。
- 「ラストサムライ」の出演シーンをテレビに流している時に「怖い、苦手な人は耳を塞いでもいいよ。」という声かけに指導者のあたたかさを感じた。ちょっとした配慮がきっかけで授業に向かう姿勢が変わると思った。
- アンケート結果の紹介をしている祭に、生徒の興味深そうな様子が見られ、意欲を喚起できていると思った。
- アンケート結果を見ることで、友達の様子を知ることができ、他者と比較して自分を振り返ることに繋がっていた。
- 後半の時間を考えると、アンケート結果の紹介をもう少しコンパクトにまとめてもよかったのではないか。

<展開：前半>

- 本時の課題に沿った展開とするならば、「大きな目標が～どんなことをしたからだろう？」ではなく「大きな目標が～どんなよさがあったらだろうか」にするとよかったのではないか。
- 本文を読む際に、生徒たちへ事前に聞く視点を与えていたことがよかった。
- 生徒が発表したことを板書することにより、多様な考え方の交流ができていた。
- 教師の範読は、CDよりも教材に引き込まれる感じがした。
- 福本さんの頑張りについては、あまり時間をかけず教師主導で意図的に進めていくか、指導案に書かれている生徒たちからの考えを引き出すような発問の工夫が必要だったのではないか。
- 展開後半に考えを深めさせるために、福本さんの生き方に対してどう思うか、という意見を生徒に語らせてもよかったかもしれない。

- 時間配分を考え、あまり深入りせずに、切り上げていることがよかった。
- もう少し、福本さんのしてきたことから、どんなことを大切にしてきたのか、ということについて扱うと後半への繋がりが強くなると思った。
- 大切にしていることを読み取る場面において、「国語にならないように」かつ「一般化した言葉で」表現するところが難しいと思った。

<展開：後半>

- 自分から見た自分のよさ、他人から見た自分のよさを交流することにより、メタ認知に繋がった。自分では気づかないことに気づくことができる素敵な時間だった。
- スムーズに話し合いができており、学級風土のすばらしさを感じた。
- 生徒たちは「恥ずかしい」と言いながらも、楽しそうに活動していた。
- 友達のよいところをただ渡すのではなく、読んでから渡すのはとてもよかった。
- 互いの「よさ」は無記名で書かせる形でもよかったのではないか。
- 教科書を範読する時間を短縮すると、展開後半にもう少し時間をかけることができたのではないか。
- 自分の生き方と比べて考えさせる場面で、「部活・勉強に置き換えてみたら」と悩んでいる生徒へのさりげないアドバイスがよかった。
- 「よさ」だけでなく「頑張り」も含めたことにより、取り組みやすかったのではないか。
- 「よさ」と「頑張り」は同じものではないため、「自分のよさを生かす」というゴールにスムーズに繋がっていないような感じがした。
- 展開前半で読み取ったこととの繋がりが、自分と他人からの評価の繋がりがあいまいな感じがした。
- 指導者の「否定せず素直に受け取る」姿勢や声かけが効果的だった。

<終末>

- 自分の思いの深まりを実感できている生徒が多かった。
- 生徒たちが、まだ書きたそうにしている姿が印象的だった。
- 多くの生徒が本時の主題に迫ることができていた。
- 「『自分にとって輝く瞬間を大切に』みなさんはどう思いますか？」と教師が最後に投げかけていることがよかった。
- みんなに褒められたことが嬉しかったので、もっと言ってもらえるように頑張る！という意欲に繋がったことはよかった。「みんなに言ってもらえるから」ということだけではなく、自分自身がこれを大切にしたい！という思いにつながるとよいと思った。
- 多面的に捉えた自分の「よさ」をどう活かしていくのか、という発問は抽象度が高いため、難しく感じた生徒もいたのではないか。時間配分に関わってくるが、前段で「グループ内の友達の『よさ』は将来、どんな仕事で活かすことができそうか」ということを話し合わせてみても面白かったかもしれないと思った。

※その他

- ・考える時間が確保されていた。自分の生き方について一生懸命考え、記述していた。
- ・きめ細かなしなかけにより、生徒が「視点」をもって取り組んでいた。
- ・生徒たちの自己肯定感を高めることにつながる教材だと感じた。
- ・付箋を友達に渡す際に、照れくさそうではありましたが、書いたことをしっかりと読み上げて目を見て渡している生徒の姿が印象的だった。
- ・生徒が福本さんからの生き方から感じ取ったことを自分の思考に生かせるようにもう少し工夫ができるとよいと思った。

授業実践の反省 ～研究協議より～

開西中学校 富樫 雅美 教諭の授業

☆指導の工夫について

(1)「話す活動」「書く活動」について

- ・生徒個人の発言を、他の生徒にも「Aさんは～と言っているけどBさんはどう？」等と考えを広げていくことで、聞く習慣が定着し、より「話し合い」が深まっていくと思った。
- ・まずは個人の書く活動で記憶や考えを整理した上で話し合いをすることにより、一人ひとりが意見を出しやすく、子どもたちにとって話し合いがしやすかったと思う。
- ・生徒は自分なりに視点を考えて活動ができていた。
- ・交流の際の人数を決めることで積極的に活動しているように見えた。
- ・それぞれの活動に十分な時間が確保されており、じっくり取り組むことができていた。
- ・生徒は道徳の授業の展開の仕方に慣れている様子だったので問題はないかもしれないが、書く・話す時間が何分間設定されているのかを伝えてから活動すると、見通しを持ってよかったのではないか。
- ・自由交流では積極的に意見を述べ合う姿が見られた。その自由交流により生徒一人一人が考えを広げることに繋がっていました。



☆授業全般について

<導入>

- 市のハザードマップを用いて、本時の内容を自分事に行っている点がよかった。
- どんどん意欲的に意見を出してくれる子供たちに相応しい、それぞれの考えを発表できるシンプルな導入の仕方だったところがよかったと思う。
- 胆振東部地震の経験やハザードマップなどを用い、危険は身近にあるというイメージをつかむことができたと思う。展開の中で、この時の経験から「こうしておけばよかった」ということを引き出せると、また面白かったかもしれない。
- (小学校での)宿泊研修中に発生した胆振東部地震や市の避難場所を想起させることで、生徒たちの意識付けをすることができていた。

<展開：前半>

- 中学生の中には、年齢的なものもあり、隣の人などと話すことを苦手とする生徒もいるのではないかと考えていたが、多くの生徒がスムーズにペア交流を行うことができていたことが素晴らしいと思った。学級に「学び合える風土」が育まれていることを感じた。
- 富樫先生の想定通りに授業が流れていたように見えた。日頃から子どもたちの様子をしっかりと見取ることにより、生徒の実態に合った授業づくりができるのだと感じた。
- 教材から、「日頃の備え」について読み取る中で、「人と人との繋がり・関係」についての声を引き出せると、後半の話し合いや終末のまとめで発想が広がったのではないか。
- 災害に対して自分自身が特に何の備えもしていないということに気付かせた上で、その姿勢を東日本大震災の被災者に重ね合わせるよう導いていました。この流れは、生徒が「自分事」として考える上で有効だったと思う。

<展開：後半>

- 「節度・節制」の価値に繋げるのであれば、例えば「日本が災害に見舞われた際に、海外からの協力隊の方々が、日本の避難所では物資の取り合いが起きず、人々は並んで待っている。そして、自分達が大変な状況なのに敬礼をしてくれる。」というようなエピソードを紹介することも有効だったのではないか。
- 自分の身の回りの実体験を思い出し、その体験への備えについて考えることは、子供たちも実感がわきやすく意欲的に取り組むことにつながると思った。

- 実体験に基づいた少し前に戻れたらどうするかとの交流は、なぜ1対1だったのか気になった。
(同じ話を5人にするのは時間がかかるように感じたため)
- 生徒に「安全に配慮して生活するメリット」を考えさせる前や導入の段階で、教科書本文の3名がそれぞれどのようなことを得たのかを確認できると考えが深められたのではないかと思う。
- 交流する場面で班単位ではなく学級単位で行うことにより活発に意見交流ができていたと思う。
- 意見交流から、「なるほど」と思ったことがいろいろあったことが、ワークシートの記述から読み取れた。そこから気づきを深めるために、もう一歩踏み込んだ声かけができることよりよいのではないかと思った。
- 教師が紹介したA組の意見をワークシートに書いている生徒もいたが、B組の中で同じような意見を書いている生徒もいたので、意図的に指名して気づかせることができるとよかったのではないかと思った。
- 危険を回避する上でどんなことができるかを考えさせたことは有意義だと思う。一方で、危険なことそれ自体に楽しさを感じるのも思春期ですので、そのあたりの本音を引き出した上でどうバランスをとっていくか、という所まで考えさせられるとより深まったのではないか。

<終末>

- 生徒のプリントを見ると、それぞれが安全に気をつけることは自分だけでなく、周囲の安全にも繋がるといった記述があり、よいと思った。
- 友達が危険な体験をしていることを改めて知ったことにより、自分にとっても関係があり、危険について身近に考え、安全に配慮しようという気持ちになったのではないか。
- 危険を回避するために「準備をしておくべき」「気をつけるべき」という感想は多く挙がっているが、そのために「具体的にどんな行動をすべきか」まで突き詰めると、生活における実践力に繋がったのではないか。
- A組の意見を紹介したことは、生徒が多角的な気づきを得るよすがになったと思います。ただ、中にはそれによって思考が引っ張られ、自分の言葉で考えることをやめてしまう生徒もいたのではないか。

※その他

- ・「地震」から「節度・節制」を深めていくのは難しいと感じたが、生徒は自分自身の体験や経験からそれぞれ価値を深めていた。
- ・生徒の発言を「問い返す」ことで、表向きではない、更なる価値の深まりが狙えのではないか。
- ・子供たちが元気に、そしてある程度自由に発言できる雰囲気作りが普段からされていると感じた。
- ・指導案検討の段階では気がつかなかったが、安全に配慮して生活することで「何が得られるのか」ということが大切だと思った。学習課題を「安全に配慮(危険を回避)して生活することで得られるもの(こと)」としたら、学びに広がりが出たのではないか。

第4章

成果と課題

1 研究内容について

(1) 児童生徒の思考を深める発問の工夫

【視点】

① 児童生徒の思考を深める発問の工夫

ア：学習指導過程の特質に応じた発問の工夫

イ：「展開」における教材の魅力を引き出す発問の工夫

ウ：児童生徒の実態の把握

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分ごとにさせる発問」「個人思考や集団思考に移る前の情報共有が目的の発問」「表向きではない、深い価値に迫らせる発問」など、各学習過程の段階で使い分けることの大切さは確認できたと思います。 ・「道徳読み」の手法を活用し、「児童生徒が客観的に判断する発問」→「児童生徒が主観的に判断する発問」という流れで授業を組み立てると、道徳的価値と具体的な行動をリンクさせて振り返らせることができる。 ・主題に対する興味や関心を高められたり、自分とかかわりがあるという意識をもたせられたり、実物（手紙）や動画は効果的であった。 ・児童生徒間の意見交流の時間が確保されており、自分とは異なる考えに触れたり、考え直したりすることができていた。 ・教材の魅力を引き出すためには、まず教材文の理解が必要であり、その上でどの部分を使って価値を深めていくのか考え、発問を練るという点では共通理解できたと感じます。 ・主題に迫っていく発問となっていました。 ・教材をより深く考えさせる発問となっていました。 ・教材に対する理解を深める工夫（映像、補助的な教材、概略説明のパワーポイントなど）を活用し、授業の展開をスムーズにすることができていた。 ・道徳アンケートが、客観的に子ども達の実態を示しているのではないのでしょうか。また、アンケートの結果を用いることで、「効果的な導入」を作り上げている例も見られたと考えます。 ・事前アンケートの活用や自分たちの実体験から学習に入ることで、自分事として考える事ができていました。 ・事前にとったアンケートをもとに発問することで、児童生徒の興味関心をひき、思考を深めることにつながったと感じた。 ・事前アンケートや教材に即したアンケートを行い、生徒の実態をある程度把握した上で主発問を考えることができた。 ・学年や発達段階において、発問の工夫がされていたように思います。（通知表をつけるスタイル、アンケートの結果から導入に入っていく等） ・事前アンケートにより、教師側の狙いがはっきりとし、発問が精選されていたように思う。 ・「自分だったら」という視点で教材に向き合える工夫が為されていた。 ・アンケートの結果をみることで、他の人の様子を知ることができ、他者と比較して自分を振り返ることにもつながったと思う。 ・「動作化」は子どもたちに考えさせていくときに、有効だと感じました。その教材にあわせて取り入れていきたいです。
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・課題ではないが、各学習過程で指導者が何をさせたいのか？、何を狙うのか？、それをその場で判断しなくてはいけない「教師の仕切り」の難しさを今回も痛感しました。 ・「道徳読み」の手法は「葛藤教材」だけではなく「感動教材」においても有効か否かの検討。 ・互いに議論して意見を深めていくような発問があってもよいのかも。 ・板書や資料の有効活用により、どのような特性をもった児童・生徒にも参加しやすい授業づくりができるとよい。 ・「生徒の思考を広げる発問」と、「思考の焦点がぶれてしまう発問」の違いや、授業として何を狙って、どこまで発想の幅をもたせるべきかの見極めについて研究する必要がある。 ・「展開」での主発問の設定について、教材をどのように読み取りどのような言葉を使ったら生徒により響くか、難しさを感じた。 ・教材の魅力は、取り手によって変わってくると思います。ですから、いろいろな取り方ができる教材の魅力のどれを「納得解」として授業で扱うのか、その吟味が難しいのではと考えます。「教材のどの魅力を扱っていくのか、選ぶ難しさ」「それには即効性のある方法はない」というのが課題でしょうか…。 ・道徳アンケートの結果が、なぜそう出ているのかは、様々な要因が絡み合っていると思います。例えば「家族愛」の数値がよくないのは、家庭環境が複雑な子どもが多い学習集団だからかもしれません。そんな子ども達に、「家族愛」の価値を問うても深まらないと思います。その部分の読み取りは、一筋縄ではいかないと感じました。 ・教科書教材をどのように活用するか、一つの答えに誘導しないよう多様な考えに広げていくためには扱い方が難しい題材もあると感じた。 ・多様な発想があることはよいが、観点項目の幅が広すぎると、それぞれの発想がお互いの発想を深める手助けになりづらい。 ・滝川市の道徳アンケートは、教材によっては、実態把握に役立つものではあるが、内容項目が一致しないものもある。全ての内容項目にあわせて作り直すのは現実的ではないので、使えるなら使う程度のスタンスでいいのではないだろうか。 ・タイムマネジメント ・発問に関する資料や映像の提示の仕方。提示に時間がかかりすぎると、予定していた活動が行えなくなるので、タイムマネジメントが必要かと感じました。
----	--

<p>○事前アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の興味・関心を喚起する発問(主に導入部)や一番深く考えさせたいこと(価値理解)に係る中心発問(主に展開部)等、学習過程に応じた発問を考えることができた。 ・授業における「しかけ」(動画や動作化等)を考えることができた。 <p>●教材の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中心発問」が本時のねらいやテーマと一致しているかを考えること。 ・「多様な考えを引き出す発問」を吟味すること。 <p>●タイムマネジメント</p> <p>授業における「しかけ」(動画や動作化等)を厳選すること。</p>
--

○成果 ●課題(以下同様)

(2) 言語活動の充実を図る指導方法の工夫

【視点】

①道徳科における言語活動の充実

ア：道徳科の授業における言葉

イ：自分の考えを基に書いたり話し合ったりする(表現する)機会の充実

成果

- ・言葉を通して自分の意見を発信したり、反対に受信したりすることが、本時で価値を深めていくためには必須であると考えています。今年度の授業も昨年度同様、言葉を発信させるための様々な情報共有の手立て（ペア学習・パワーポイント・小集団学習・付箋での交流など）が工夫された授業であったと感じます。
- ・児童生徒が自由に立ち歩きながら交流することで思考を広げる、という活動は特に展開部で有効な手法であると感じる。
- ・ワークシートを有効活用していたように思います。
- ・どの授業でもグループでの話し合う時間など、他と意見を交流し合う時間がしっかりと確保されていました。
- ・書いたり話し合ったりする場を設定することは、全ての授業で意識されていたのではないのでしょうか。
- ・話し合いの活動を十分に確保し、友だちの考えを聞いたり、自分の考えを話したり、交流することによって自分の考えがまとまりやすくなると感じた。
- ・昨年度までに検証していた有効性が裏付けられる内容であったと思う。
- ・どの授業でも児童生徒が積極的に交流できていた。日頃の指導の積み重ねの大切さを改めて感じた。
- ・自分の考えを基に書いたり話し合ったりする活動へのとりくみの際、教師側の声かけひとつで充実したものになるのかならないのかがよくわかりました。授業を参観して、「今のあなたならどう思う？」「あっているかどうかなんて関係ないよ」「話し合いの時間の間はしゃべり続けよう」等などの声かけが有効だと感じました。
- ・児童生徒の交流の時間が確保されていた。自分の考えを伝え合うことで、多様なものの見方で考えることができていた。

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち歩き自由交流は生徒指導上落ち着かない状況の学校では成立しにくい部分もある。そのため、様々な学校で活用していただくためには立ち歩き自由交流のような「自由度の高い交流のあり方」に加え、汎用性が高い「システムティックな交流のあり方」も検討していく必要があるように感じた。 ・他児童との意見交流の方法は、児童の実態に応じてしっかりと検討しないと、目が行き届かなくなる分、活動できる児童とできない児童に分かれる心配があります。 ・社会情勢から、話し合いの活動の仕方に制限があり、実践することが難しく感じた。ICT機器の活用が効果的ではないかと考える。 ・「書く」「話す」ことによって思考を深める展開が必要。特に言語活動として、「話す」ことは、ただしゃべることではなく、話し合っって思考を深めることであるというおさえから授業を組み立てるべきである。 ・生徒が考えていることの言語化やさらに思考を深めるための手立てが難しいと感じる。 ・考え、議論することが目的になってしまっていた。考えを深める時間をしっかりとりたい。 ・グループ活動は一年間行っていない。限られた条件の中で、より有効な、より生徒が深く考えていけるような方法を工夫していきたい。 ・視点とはずれるかもしれませんが、言語活動の充実を図るためには、教材の研究と、適切な時間配分、どこまで指導案によるか？などの要素を突き詰めていくしかないと考えます。ですから課題はありませんが、これらかも深めていく必要性や必然性ならばあるのではないのでしょうか。 ・この課題は昨年のおまとめ（思考の効果的な取り入れ方、目的に即した交流、考えを深める方法など）からあまり進歩していないような気が…
----	---

<p>○表現活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの活用やペア・グループ学習等、様々な学習展開により言葉を発信・受信するための手立てが見られた。 <p>○活動時間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書いたり、話し合ったりする時間が意識化されていた。 <p>●考えの深化</p> <p>自分と仲間の考えを比較することにより共感したり、違った考えに対してなぜ自分と違うのかを客観的に捉えたりすること。</p>

②道徳科の授業における「書く活動」「話す活動」の役割とねらい

ア：「書く活動」の役割とねらい

イ：「話す活動」の役割とねらい

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返る（書く活動）を取り入れることで、自分の考えの変容に気づく機会になる。 ・授業の多くで小集団による非言語の学び合いを行われていました。他人にコメントしてもらうことで、子ども達は「自分の意見を聞いてもらえた」という満足感を得ていたと感ずます。そのことが意欲的に授業に取り組む動機付けにも繋がっていたのではないのでしょうか。よって、「書く活動」の役割とねらいとは「話し合いの場に子どもが立てること」「授業に対する満足度を上げること」「授業の最初と最後での自分の変容を自分で確認できること」なのだと考えます。 ・互いの「よさ」を付箋に書いて手渡すことで、その記録が本人のファイルの中に残ることになる。学期末などのふりかえりの場面を想定すると、そうした記録から学習活動を想起できることは意義深いと思う。これを話す活動にした場合、その場限りのものになってしまう可能性がある。 ・書くことで、自分の考えを整理しその後の話す活動にスムーズに参加できる。 ・記録として残るため、評価の参考にできる。 ・ワークシートの活用により、発表前に自分の考えを整理できていた。 ・道徳読みでは、登場人物の評価にそれぞれの判断が伴ったため、自ずと記述内容も量も豊富になり「話す活動」に効果的につなげられていた。 ・書くことで自分の考えがまとまり、自信をもって考えを発表できると思いました。話す活動を苦手としている児童・生徒もいると思うので、いったんグループでまたは、近隣の人と話し合った後で、全体発表に移るスタイルは、苦手な児童には有効だと思いました。 ・自分の考えを整理するために書く活動は有効だったと思う。また、どの授業でも活発に交流できており、書くことが苦手な児童生徒にとっても効果的だと感じた。 ・「通知表をつける」という目的を個々がしっかりもって話し合うことができていた。 ・話すことで、意見を交流しあい、より考えを深める手助けとなる。 ・「書く活動」の役割とねらいと重なる部分もあると考えますが、違う点があるとすれば、「即興性がある」「特別な機器がなくても一度に全体に発信できる」なのかと思います。 ・最初に自分の立場を明確にすることによって、意見をもちやすく、考えがまとまりやすいように感じた。交流して自分とは違う考え方を知ることによって、より考えを深めたり、多角的に物事を考えたりすることができるようになると思う。 ・昨年度までに検証していた有効性が裏付けられる内容であったと思う。 ・交流を通して、深まりを実感できた児童生徒が多かったと思う。グループでの交流はやはり有効だと感じた。 ・「話し合い」のときに、「学びあい」であることを意識させていたのが効果的だと感じた。 ・「書く」「話す」とともに、意図的に行っていくことの重要性を感じた。 ・「書く」前に、具体例を示してあげたり、小さなことにかまわないなどの教員側からのメッセージを伝えたりすることで、生徒が安心して考え書くことにつながっていた。どう言葉がけするか工夫されていた。
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動は思考を深める点、記録として残せる点でメリットは大きい。一方で、時間が多くかかるというデメリットもあるため、その活動で本当に「書く」ことが必要なのかどうかをタイムマネジメントの観点から入念に検討する必要がある。 ・何をどの場面で活動させるのかをよく吟味し、より効果的な活動とさせたい。 ・「何を書かせるのか?」「何を話させるのか?」45分という限られた時間の中で、授業のどこにスポットを当てて、時間配分していくのかがやはり難しいと感じました。指導案を作成しても、その指導案が児童の「本時での関心事」と必ずしも一致するとは限りません。これは、「書く活動」「話す活動」にとどまらない話ですが、現在求められる授業において「指導案」の位置づけについて再考していく必要性を感じます。 <p style="text-align: center;">※個人的には、指導案はアジェンダのようなもので十分だと思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書くこと、話すことなど、自分の考えを文章化して表現することが苦手な児童生徒に対してどのような支援を行っていくか、小学校低学年のうちにどのような活動を取り入れる必要があるかを考えていかななくてはならない。 ・ワークシート、板書、教師からの指示それぞれにおいて、教師が「考えてほしい内容」(出してほしい答え、ではない)に即した発問によって活動させることが大切である。 ・何を書かせるかポイントを整理し提示することが大切だと感じた。 ・教材に合わせ、考えるテーマ(内容項目)を限定すべき ・意見発表で終わるのではなく、互いに深め合っていくための意識付けが必要。
----	--

<ul style="list-style-type: none"> ○「書く活動」の効果 <ul style="list-style-type: none"> ・考えを整理することにより、話し合う活動にスムーズに参加することが可能となった。 ・終末部においては、学びの自覚や思考力・判断力・表現力の育成に繋がった。 ○「話す活動」の効果 <ul style="list-style-type: none"> ペアやグループ等の様々な隊形で意見を交流し合うことができた。 ○評価に生きる情報収集 <ul style="list-style-type: none"> 「書く活動」・「話す活動」におけるワークシートや児童生徒の発言等の記録を評価に生かすことができた。 ●1 単位時間における効果的な「書く活動」「話す活動」 <ul style="list-style-type: none"> それぞれの活動を、どの学習過程で取り入れるのかを吟味すること。 ●「話す活動」の目的 <ul style="list-style-type: none"> 意見を交流し合うことは、考えを広げたり、深めたりする場であること。 ●「書く活動」「話す活動」を苦手としている児童生徒への支援 <ul style="list-style-type: none"> 各教科等と関連させて「書く力」「話す力」の育成を図る必要があること。
--

③「書く活動」「話す活動」を生かした指導過程の工夫

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第三小の田中先生の実践では最初に「故郷」という言葉を定義付けされていた。指導者が「分かっている当たり前」だと考える語句であっても、児童生徒は非常に曖昧に捉えていることが少なくない。「書く」「話す」活動の前提として、導入部から展開部前半においてこうした定義付けを行うことで児童生徒の思考のフレームをしっかりと作ることが大切だと感じた。 ・書く⇒話す活動がスムーズでした。 ・各授業者の授業を拝見すると、「書く活動」と「話す活動」を一体化して行われていたと感じます。このことから「書く」と「話す」はセットで行うと効果が上がるという確認はできたのではないのでしょうか？情報共有の段階では「話してから書く」方が良さそうですし、考えを深めていく場面では「書いてから話す」と基本的には良いのかなと感じます。 ・考えた内容を付箋に書いて交流相手に渡す活動など、「書く」活動がそこで完結するのではなく、次につながったり、形として残ったりすることで、児童生徒の達成感につながり、次回への意欲につながるのではないかと考える。 ・これまで有効と確認されてきた「自分の考えを書く」→「話し合いで交流する」という流れが、どの学校でも定着してきている。 ・「書く」「話す」活動にどのくらいの時間が必要か、子どもが判断することで主体性を持っているように感じた。 ・ワークシートと黒板がリンクしており、児童への配慮がなされていた。 ・個人→ペア→グループと話し合うことで、深く学べていたように思う。 ・「道徳見つけ」は、様々な観点で広く考えていけて面白い活動だと思う。ただ、今回は、中心人物に焦点を当てて考えさせた方がより深まったのではないだろうか。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時には、話す活動を先に入れて考えを膨らませた上で、書く活動を入れるとねらいにそった内容を書くことができよと思います。 ・「書く活動」「話す活動」を生かすのではなく、課題を深めていくための「書く活動」「話す活動」の選択、この順番をしっかりとおさえないと、活動ありきの授業に成りかねない様に思えます。(結局多くの場合この書く・話す活動が選ばれるわけですが…) ・教科書教材の扱い方を考え、話し合いの活動を十分に確保する必要がある。 ・活動時に、それぞれの活動の目的に即した隊形(個 or グループ)になるよう配慮することも、生徒の思考を引き出すための工夫として重要。(特に今年度は、感染症対策の観点からも、長時間机をつけて向かい合わせることは望ましくない) ・他の人の考えに触れてさらに自分の考えを深めるための手立て。ふりかえりの書かせ方と、その後のあつかい方。どの授業もふりかえりに行き着くまでに時間が足りなくなってしまう、ふりかえりの扱い方がわからないままだったので、どのように児童・生徒にふりかえりを還元しているのか知りたかったです。 ・「書く」「話す」「振り返る」時間配分は難しい。

○「書く活動」と「話す活動」の一体化

①主題に迫るための活動として『書く活動』から『話す活動』へ」という流れが定着した。

②思考の土台とするための活動として、『話す活動』から『書く活動』へ」という流れも有効であった。

●「書く活動」と「話す活動」の目的

考えを深めていくための活動であることへの意識化。

●タイムマネジメント

授業における「書く活動(振り返りを含む)」「話す活動」の時間配分。

(3) 保護者や地域の方などの支援を得た指導の工夫

【視点】

①学習指導過程への位置付け

②保護者や地域の方を迎えるための配慮事項

③道徳授業の発信と双方向の取組

成果	<ul style="list-style-type: none">・岩橋英遠さんを扱うことにより、間接的ではあるが、地域の資源を活用した授業を展開することができた。・(校内の状況として)今年度は保護者に公開することはできなかったが、学級通信等で感想を交流するなど、各学年で工夫した取り組みを行った。・ゲストティーチャー～卒業生(教育委員会職員)、他校管理職など～に講演していただき、生徒が多面的に考えるきっかけとなりました。・担任が担当することが効果的な教材、別の担当者の方が効果的な教材などを見極め、学年団全員で道徳の授業を実践することで、教員間のスキルアップや事務作業の偏りの解消ができている。
課題	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍の下ではこの点に関する実践は難しかった。明苑中学校では様々な場面で ZOOM を活用して外部人材と繋げる実践を行っているということなので、そうした事例から学び、各校で工夫していくことが必要だと思う。・学級通信等で授業の様子や児童生徒の反応などを伝えていけたら良いと思います。・保護者や地域との連携と考えた時に、今年度はなかなか実施が難しかったです。外部講師・施設訪問もなかなか行えず、強いて言うなら学年学級通信が連携の手立てに当たるのかと思います。・今年度の研究からは見えませんでした。・この点に関して、昨年の反省を生かした活動ができなかったことが課題か？(本会議からの情報発信、外部講師事例の交流など)・学級通信や学校通信を用いて保護者へ発信できたが、双方向の取り組みにはできていない。・指導案検討や授業実施を自校全体の取り組みには生かし切れなかった。・今年度は、コロナ感染拡大防止のため、講師として来校していただく機会がほぼ「なし」になってしまいました。来年度も収束は見込めないところなので、来校できないのならば、それに代わるものとしてどんな方法があるのかを今後は模索する必要があると感じました。・ゲストティーチャーは、あまり外部の人を呼ぶのは時期的に厳しいので、身近な方に限定しています。

- ・各校に、ZOOMが利用できるようなPC等を設置してほしいです。あるいは、公用パソコンにZOOMを入れてほしいです。入れるならば無料アカウントでは無く、時間制限のない形式のアカウントでお願いしたいです。

○コロナ禍だからこそできる取組を工夫し実施することができた。

- ポストコロナ時代を見据え、どのような方法が可能であり、かつ有効であるのかを模索していく必要がある。

(4) その他

- ・児童の豊かな心を育むためにも、学校で多様な生き方・考え方を学ばせるだけでなく、保護者へ道徳授業の情報発信（通信などで）を行い、親子で考えてもらう時間も必要である。保護者への協力も必要。
- ・子どもたちが、自分の考えを安心して表現できる雰囲気作りができていた。日常の積み重ねを感じた。
- ・今年度の研修推進は難しかったと思います。大変お疲れ様でした。

《参考・引用文献》

- 小学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省
- 小学校学習指導要領 解説―特別の教科 道徳― 文部科学省
- 中学校学習指導要領 解説―特別の教科 道徳― 文部科学省
- 「道徳教育アーカイブ」 文部科学省
- 平成27年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 平成28年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 平成29年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 平成30・31年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 令和2年度 小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 平成30年度北海道道徳教育推進会議資料 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 「特別の教科 道徳」の充実に向けて 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 「特別の教科 道徳」の評価について 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 新学習指導要領を踏まえた道徳キーワード 光村図書出版株式会社
- 平成22年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- 平成23年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- 平成24年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- 平成25年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- 平成26年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- 平成27年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- 平成28年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- 平成29年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- 平成30年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- 令和元年度 滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
-



滝川市いじめ根絶シンボルマーク最優秀作品

令和2年度 滝川市道徳教育推進事業 実践報告書

「自己と他者の心を見つめる道徳科の授業の在り方」 ～考え、議論する学習過程を通して～

発行 令和3年3月
発行者 滝川市教育委員会・滝川市道徳教育研究会議
所在地 〒073-8686 滝川市大町1丁目2番15号
滝川市教育委員会 教育総務課
TEL 0125-28-8042 FAX 0125-24-1024